

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院基幹プログラム

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム

内科専攻医研修(モデル) p9～

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群 p26～

内科専門研修プログラム管理委員会 p78～

2016/03/18 ver1.0

2016/03/24 ver1.1

2016/03/24 ver1.2

2016/03/26 ver1.3 (事務局)

2016/03/27 ver1.4

2016/03/28 ver1.5 (事務局)

2016/03/28 ver1.6 (事務局)

2016/03/28 ver1.7

2016/03/28 ver1.8 (事務局)

2016/03/29 ver1.9 (事務局)

2016/07/18 ver2.0 (事務局)

2016/07/21 ver2.1 (事務局)

2016/07/21 ver2.2 (事務局)

2017/02/23 ver3.0 (事務局)

2017/02/24 ver3.1 (事務局)

2017/06/16 ver3.2 (事務局)

2018/03/19 ver3.3 (事務局)

2019/02/26 ver3.4 (事務局)

2020/03/31 ver3.5 (事務局)

2021/04/02 ver3.6 (事務局)

2021/10/20 ver3.7 (事務局)

2022/05/23 ver3.8 (事務局)

2023/05/19 ver3.9 (事務局)

2024/05/07 ver3.9.1 (事務局)

2025/05/28 ver3.9.2 (事務局)

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準1】

- 1) 本プログラムは、愛知県名古屋市東部医療圏の中心的な急性期病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院を基幹施設として、愛知県名古屋市東部医療圏・近隣医療圏および北海道、宮城県石巻市、岐阜県高山市、大垣市、多治見市、三重県四日市市、大阪府吹田市にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て各県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（原則、基幹施設2年間+連携施設・特別連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系サブスペシャルティ分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を有し、様々な医療環境で全人的な内科医療を実践する能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶ。その際、単なる繰り返しではなく、疾患や病態によって、特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験もできることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導・評価を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準2】

- 1) 愛知県名古屋市東部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、多様な医療現場で活動し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1). 本プログラムは、愛知県名古屋市東部医療圏の中心的な急性期病院である日本赤十字社愛知医療セ

ンターナ名古屋第二病院を基幹施設として、愛知県名古屋市東部医療圏、近隣医療圏および北海道、宮城県石巻市、岐阜県高山市、大垣市、多治見市、三重県四日市市、大阪府吹田市にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は、原則、基幹施設2年間+連携施設・特別連携施設1年間の3年間になります。

- 2). 日本赤十字社愛知医療センターナ名古屋第二病院内科施設群専門研修では、症例がある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3). 基幹施設である日本赤十字社愛知医療センターナ名古屋第二病院は、愛知県名古屋市東部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 4). 基幹施設である日本赤十字社愛知医療センターナ名古屋第二病院での原則2年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、56疾患群、120症例以上を症例登録ができるようにします。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できるようにします。そして可能な限り70疾患群、200症例以上の経験できることを目標とします。
- 5). 日本赤十字社愛知医療センターナ名古屋第二病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修3年間のうちの1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6). 本プログラムは、多様性のあるキャリアパスを選択できるように①赤十字連携コース、②名古屋大学連携コース、③名古屋市立大学連携コース、④愛知医科大学連携コース、⑤藤田医科大学連携コース、⑥自治医科大学連携コースの6コースを設定します。

専門研修後の成果【整備基準3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- 1) 病院医療：内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備え実践する。内科疾患全般の初期対応とコモンディジーズの診断と治療を行うことに加え、内科系サブスペシャリストとして診療する際にも、臓器横断的な視点を持ち全人的医療を実践する。
- 2) 地域医療：かかりつけ医として地域において常に患者と接し、内科系の慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実

践する。

- 3) 救急医療：内科系急性・救急疾患に対するトリアージを含め、地域での内科系の急性・救急疾患への迅速かつ適切な診療を実践する。

これらに合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じて多様な環境で活躍できる内科専門医を多く輩出することにあります。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、愛知県名古屋市東部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいづれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はサブスペシャルティ領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 12 名とします。

- 1) 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院は 3 次救命救急センターを擁する高度急性期病院として、豊富な症例数と多彩な疾患が集まる市内屈指の病院であり、また、指導医数も豊富であることから専門医取得にあたっての基盤は整っています。
- 2) 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専攻医の定員数は現在 10 名です。
- 3) 剖検体数は年間 10 件～20 件は確保されております。
- 4) 1 学年 10 名に対し十分な症例を経験可能です。
- 5) 1 学年 10 名の専攻医に対し、専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 56 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。
- 6) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、120 症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準 4】〔「内科研修カリキュラム項目表」参照〕

専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病及び類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

- 2) 専門技能【整備基準 5】〔「技術・技能評価手帳」参照〕

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さ

らに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のサブスペシャルティ専門医へのコンサルテーション能力などが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

- 1) 到達目標【整備基準 8~10】専攻医は主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1年： R3

- ・ 症例：研修開始から 12 (~18) カ月の期間内で、カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群 40 以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録することを目標にします。以下、全ての専攻医の登録状況については症例指導医の評価と承認が行われます。
- ・ 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録し担当指導医の評価を受けます。
- ・ 技能：専攻医は研修中の疾患群に対する診断と治療で必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を指導医、ローテーションの上級医とともにを行うことができます。
- ・ 態度：専攻医は自身の自己評価と指導医、ローテーションの上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価（専攻医評価と他職種評価）を複数回受け、態度の評価を行い、担当指導医がフィードバックを提供します。

○専門研修（専攻医）2年： R4

- ・ 症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、通算で 45 疾患群 80 以上の症例を経験し、J-OSLER に登録することを目標とします。
- ・ 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します。
- ・ 技能：専攻医は研修中の疾患群に対する診断と治療で必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を指導医、ローテーションの上級医の監督下で行うことができます。
- ・ 態度：専攻医は自身の自己評価と指導医、ローテーションの上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回受け、態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善などが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3年： R5

- ・ 症例：いずれのコース選択においても、内科領域全般の診療能力をより高める日々の努力が必要です。専攻医は主担当医として臨床を研鑽できる環境を維持します。既に登録を終えた病歴要約は、日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は最大 12 まで含むことができます）を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。
- ・ 症例指導医は専攻医として適切な経験と知識の修得ができているかどうかを確認します。不十分と考えた場合にはフィードバックと再指導とを行います。

- ・技能：専攻医は内科領域全般にわたる診断と治療で必要な身体診察、検査所見の解釈、および治療方針の決定を自立して行うことができます。
- ・また、既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、所属するプログラムにおける一次評価を受け、その後、日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受け、受理されるまで改訂を重ねます。
- ・態度：専攻医は自身の自己評価と指導医、ローテーションの上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回受け、態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力が修得されているかを指導医との面談を通じて評価し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします。J-OSLER への登録と症例指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（原則、基幹施設 2 年間+連携施設・特別連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャルティ領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

- 2) 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいざれかの疾患を順次経験します（下記 1）～5）参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。
 - ① 内科専攻医は、担当指導医もしくはローテーションの上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
 - ② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
 - ③ 総合内科外来（初診を含む）とサブスペシャルティ診療科外来（初診を含む）を少なくとも週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
 - ④ 救命救急センターの内科外来（平日夕方）で内科領域の救急診療の経験を積みます。
 - ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
 - ⑥ 必要に応じて、サブスペシャルティ診療科検査を担当します。
- 3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1) 内科領域の救急対応, 2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解, 3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項, 4) 医療倫理, 医療安全, 感染防御, 臨床研究や利益相反に関する事項, 5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項, などについて, 以下の方法で研鑽します.

- ① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
 - ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会 ※内科専攻医は年に 2 回以上受講します.
 - ③ 研修施設群合同カンファレンス
 - ④ 地域参加型のカンファレンス
 - ⑤ JMECC（内科救急講習会）受講 ※内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します.
 - ⑥ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
 - ⑦ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会
- など

4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では, 知識に関する到達レベルを A (病態の理解と合わせて十分に深く知っている) と B (概念を理解し, 意味を説明できる) に分類, 技術・技能に関する到達レベルを A (複数回の経験を経て, 安全に実施できる, または判定できる), B (経験は少数例ですが, 指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる, または判定できる), C (経験はないが, 自己学習で内容と判断根拠を理解できる) に分類, さらに, 症例に関する到達レベルを A (主担当医として自ら経験した), B (間接的に経験している (実症例をチームとして経験した, または症例検討会を通して経験した), C (レクチャー, セミナー, 学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した) と分類しています.（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については, 以下の方法で学習します.

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
 - ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
 - ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
- など

5) 研修実績および評価を記録し, 蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて, 以下を web ベースで日時を含めて記録します.

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に, 通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します. 指導医はこれを評価し, 合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.
- ・専攻医による逆評価を入力して記録します.
- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し, 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約二次評価査読委員（二次査読）による外部評価とフィードバックを受け, 指摘事項に基づく改訂がアクセプトされるまでシステム上で継続します. この評価はプログラム外からの評価であり, プログラム内にとどまらない多面的かつ客観的な評価を受けることになります. また査読者から専攻医へは, 評価とともにコメントがフィードバックされるため, 査読者とのやり取りを通じて専攻医の成長が促されるという効果も期待されています.
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC, 地域連携カンファレンス,

医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス 【整備基準 13, 14】

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した（P24. 「日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群」参照）。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院教育研修推進室が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画 【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM;evidencebasedmedicine）。
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。
- ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- ② 後輩専攻医の指導を行う。
- ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画 【整備基準 12】

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）。

※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会を推奨します。

- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画 【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可

能であることから、その習得を測定し、評価することができます。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、ローテーションの上級医とともに下記1)～10)について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院教育研修推進室が把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

※教える事が学ぶ事につながる経験を通して、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準11, 28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群研修施設は愛知県名古屋市東部医療圏、近隣医療圏および北海道、宮城県石巻市、岐阜県高山市、大垣市、多治見市、三重県四日市市、大阪府吹田市の医療機関から構成されています。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院は、愛知県名古屋市東部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である名古屋大学附属病院、名古屋市立大学附属病院、愛知医科大学附属病院、藤田医科大学病院、名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、愛知県がんセンター、国立循環器病研究センター、地域基幹病院である横浜みなと赤十字病院、広島赤十字・原爆病院、高山赤十字病院、石巻赤十字病院、総合犬山中央病院、中京病院、名古屋掖済会病院、新城市民病院、中部国際医療センター、市立四日市病院、大垣市民病院、安城更生病院、津島市民病院、春日井市民病院、岐阜県立多治見病院、公立西知多総合病院および地域医療密着型病院である北海道・清水赤十字病院、久美愛厚生病院、足助厚生病院、東栄医療センターで構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群(P27)は、愛知県名古屋東医療圏、近隣医療圏および北海道、宮城県石巻市、岐阜県高山市、大垣市、多治見市、三重県四日市市、神奈川県横浜市、広島県広島市、大阪府吹田市にある医療機関から構成しています。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科施設群専門研修では、症例のある時点で経験することだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目指しています。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

- 1). 多様性のあるキャリアパスを選択できるように①赤十字連携コース、②名古屋市立大学連携コース、③名古屋大学連携コース、④愛知医科大学連携コース、⑤自治医科大学連携コースの 5 コースを設定します。

1) 赤十字連携コース

本コースは、基幹病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院での 8 つの内科と救急での研修と、膠原病領域の研修として、横浜市立みなと赤十字病院または広島赤十字・原爆病院での研修、地域研修として北海道・清水赤十字病院、浦河赤十字病院、岐阜県・高山赤十字病院、中部国際医療センター、宮城県・石巻赤十字病院、大阪府・国立循環器病研究センター、愛知県・東部医療センター、名古屋市立大学病院、津島市民病院、春日井市民病院、岐阜県立多治見病院、公立西知多総合病院、知多厚生病院が選択可能です。

循環器、呼吸器、消化器、神経、糖尿病・内分泌、腎臓、血液・腫瘍、総合内科の各 8 科を 1~3 か月で自由に期間選択をしてローテーションし、外来研修は将来の希望科で行います。また、救急外来での研修（2 ヶ月間必修）を行うことで、臓器別に分類することができない病態に対しても、入院主治医になり経験症例数を確保します。

基幹病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院では膠原病・リウマチ領域における症例が少なめでしたが、2018 年度からは総合内科で症例の確保が可能となりました。そのため、膠原病・リウマチ領域における症例の不足も解消される見込みはありますが、定員に対する症例数をさらに十分に補えるよう、以前から症例の相談などを行ってきた横浜市立みなと赤十字病院の膠原病リウマチ内科、広島赤十字・原爆病院リウマチ科を専攻医の連携研修先に含め、状況に応じて院内・院外での研修の選択を可能にしています。

最後の 1 年間である R5 では、選択期間を多く設け、R4 修了時点での不足症例への対応、院外研修、サブスペシャルティの選択が可能となっています。

地域研修は、当院から地域支援として医師を派遣した実績があり、都市部とは異なる医療環境での経験や医師不足地域での医師の在り方を学べる点で後期研修医からも好評であった北海道の清水赤十字病院、以前から人事交流がある岐阜県の高山赤十字病院、中部国際医療センター、岐阜県立多治見病院、宮城県の石巻赤十字病院、大阪府の国立循環器病研究センター、愛知県の東部医療センター、名古屋市立大学病院、津島市民病院、春日井市民病院を連携病院としてコースに含めました。北海道清水赤十字病院、高山赤十字病院、石巻赤十字病院等、病床規模が中小の連携病院を含んでいることから、これらの連携病院の中から、過疎、医師不足地域、被災地域など地域ごとに異なる特徴ある地域医療について経験できるように考慮したローテートを組むことが期待されます。これらの連携病院をローテートすると、6 ヶ月から 12 か月程度の地域研修を行うことが可能になります。

サブスペシャルティを早めに開始したい専攻医のために、研修開始から 24 カ月の期間でローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として 56 疾患群、120 症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できたと認められる内科専攻医に対して、専門領域に対するサブスペシャルティ研修を行なえる環境を整えています。最大 12 か月の選択期間を利用して志望科でのローテーションも可能になっています。さらに、自主性のある専攻医に対しては全 70 疾患群、計 200 症例を経験できる環境を整えます。このように、本コースは当院の幅広く豊富な症例、赤十字が持つ広いネットワーク、多様な人材を活用して「視野の広い内科専門医」として育成することを目指しています。

1)赤十字連携コース

(例) 院内各科 2 か月ずつ、膠原病研修を横浜、地域研修を清水・石巻・高山で 3 か月ずつ選択した場合

ある専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	循環器	呼吸器	消化器		神経		救急 (R3のみ)		内分泌			
R4	腎臓	血液	総合内科		膠原病 (院外: 横浜)		地域 (清水)					
R5	地域 (石巻)		地域 (高山)		院内選択	院内選択	院内選択 (不足分・進路希望)					

このコース選択にあたっては、大学の医局への入局は必要ではない。

- ・R3～4 の 2 年間で 45 疾患群以上・計 80 例以上の主担当医経験が必要
- ・院内ローテは各科 1～3 か月で自由に期間選択できるので、研修開始から R4 の 9 月までのうちに院内研修で内科 8 科+救急を、トータル 12～18 か月でローテートする。
- ・救急 2 ヶ月は必修で原則として R3 にローテートする。
- ・膠原病症例の経験は、院内研修または、院外（横浜 or 広島）で状況に応じて選択する。
- ・地域研修を清水日赤・浦河日赤・石巻日赤・高山日赤・循環器病センター・東部医療センター・名市大・津島市民病院・春日井市民病院・知多厚生病院から 6～12 か月程度の期間で組み合わせて選択する。なお、地域研修の単位は 1 施設最低 3 か月の期間が必要。
- ・R5 の「院内選択（基幹病院）」は R4 修了の時点で症例が不足する場合、1 か月、2 か月、3 か月の期間を設定して不足症例を補充
- ・53 疾患群 + 3 (総合内科 I II III) の計 56 疾患群・計 120 症例の修了する見込みが立てば、院内・院外研修終了専攻医は進路希望科（サブスペシャルティ）研修を早くから開始することも可能

2) 名古屋市立大学連携コース

本コースは、名古屋市立大学入局希望者を対象とするコースです。日本赤十字社愛知医療センター・名古屋第二病院で後期研修終了後に名古屋市立大学への入局希望者は年間3名程度の実績があり本コースを準備しました。プログラム内容は、赤十字連携コースと同様です。

将来、名古屋市立大学入局希望者を想定していますが、入局が必須ということではありません。

2)名古屋市立大学連携コース

(例) 院内各科 2か月ずつ、膠原病を横浜、地域を清水・東部医療センター・名市大で 3か月ずつ選択した場合

ある専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
R3	循環器		呼吸器		消化器		神経		救急 (R3のみ)		内分泌			
R4	腎臓		血液		総合内科		膠原病 (院外: 横浜)			地域 (清水)				
R5	地域 (東部医療センター)			地域 (名市大)			院内選択	院内選択		院内選択 (不足分・進路希望)				

このコース選択にあたっては、将来、名市大系の医局に入局を希望する人が対象（必須ではない）

- ・R3～4 の 2 年間で 45 疾患群以上・計 80 例以上の主担当医経験が必要
- ・院内ローテは各科 1～3 か月で自由に期間選択できるので、研修開始から R4 の 9 月までのうちに院内研修で内科 8 科+救急を 12～18 か月でローテートする。
- ・救急 2 ヶ月は必修で原則として R3 にローテートする。
- ・膠原病症例の経験は、院内研修で、または院外（横浜 or 広島）で状況に応じて選択する。
- ・地域研修を清水日赤・浦河日赤・石巻日赤・高山日赤・循環器病センター・東部医療センター・名市大・津島市民病院・春日井市民病院・知多厚生病院から 6～12 か月程度の期間で組み合わせて選択する。
- ・R5 の「院内選択（基幹病院）」は R4 修了の時点で症例が不足する場合 1 か月、2 か月、3 か月の期間を設定して不足症例を補充
- ・53 疾患群 + 3 (総合内科 I II III) の計 56 疾患群・計 120 症例の修了する見込みが立てば、院内・院外研修終了専攻医は進路希望科（サブスペシャルティ）研修を早くから開始することも可能

3) 名古屋大学連携コース

本コースは、名古屋大学入局希望者を対象としたコースです。研修開始から循環器、呼吸器、消化器、神経、糖尿病・内分泌、腎臓、血液・腫瘍、総合内科の各8科と救急科を各科1～3か月の期間を自由に選択し、12か月～18か月の期間でローテーション研修を行ないます。日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院での研修を重点的に行う場合救急は2ヶ月間必修です。各科の研修は、症例登録に必要な疾患群の中で関連する疾患群を日頃診療する可能性の高い診療科が共同指導体制を構築して、期間内により多くの症例を経験できるように配慮しています。このローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当医として56疾患群、120症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約が作成できるように指導していきます。研修手帳内の疾患群項目表に含まれる疾患群の中には、ローテーション研修期間内においても経験しない症例も含まれているかもしれません。このような疾患症例については、J-OSLERなどを活用して各内科専攻医の経験症例数の集積状況を把握しながら、ローテーション研修以外に3年間の研修期間を通じて主担当医として症例経験できるような工夫を取りたいと考えています。研修2(～3)年目はその経験症例数の集積状況を把握しながら、移行措置期間は、6カ月以上、移行措置期間以降は12ヶ月の異動を伴う必須研修を想定しています。異動をともなう研修は、愛知県がんセンター、総合犬山中央病院、久美愛厚生病院、JCHO中京病院、名古屋掖済会病院、安城更生病院、大垣市民病院、市立四日市病院、名古屋大学医学部附属病院、津島市民病院、春日井市民病院、岐阜県立多治見病院、公立西知多総合病院のうちから選択します。その時期と研修方法は、専攻医の希望と指導医からあがる報告をもとに専攻医研修1年目後半に研修プログラム管理委員会が調整を図ります。名古屋大学連携コースに参画している連携病院において初期研修を行なった後に本プログラムへ参加する場合には、原則、その病院からプログラムを開始していくこととします。研修期間での経験症例数に応じて、基幹病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院での6カ月以上の異動を伴う研修を行なうこととします。また専攻医の希望を考慮し、名古屋大学連携コース以外の連携施設での研修も可能です。

本コースは、サブスペシャルティを早めに開始したい専攻医のために、研修開始から12(～18)か月の期間でローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として56疾患群、120症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約が作成できたと認められる内科専攻医に対して、専門領域に対するサブスペシャルティ研修を行なえる環境を整えています。サブスペシャルティ経験症例として登録できる期間は最長1年となります。自主性のある専攻医に対しては全70疾患群、計200症例を経験できる環境を整えます。

3)名古屋大学連携コース

① 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院での研修を重点的に行う場合のローテート選択例

ある専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月										
R3	消化器		救急		呼吸器		神経		腎臓・膠原病		内分泌代謝											
R4	連携病院での異動を伴う必須研修 名古屋第二赤十字病院でのプログラムに対する調整期間																					
R5	研修開始基幹・連携病院での内科研修 (異動を伴う必須研修・サブスペシャルティ研修のケースを含む)																					

このコースは、将来、名大の医局に入局を希望する人が対象

- ・主担当医として通算で R4 までに最低 45 疾患群以上の経験と計 80 症例以上の症例（外来症例は登録症例の最大 12 まで含むことができる）を経験すること
- ・各専攻医に対する指導医は、不足の疾患群の把握を行ない、必要症例数を経験させる
- ・基幹・連携病院での異動を伴う必須研修期間は名大関連施設で 6 ヶ月以上が必要。名大関連施設以外でも 6 か月以下の期間で選択可能。・選択カリキュラム数（1 個・複数）およびその期間は自由度を持たせる
- ・救急 2 ヶ月は必修で原則として R3 にローテートする
- ・R5 では、異動を伴う必須研修・サブスペシャルティ研修などの選択をするとともに内科症例の継続的な経験を行う

② 連携施設での研修を重点的に行う場合

ある専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	連携施設での研修											
R4	プログラムに対する調整期間 名古屋第二赤十字病院での研修											
R5	研修開始基幹・連携病院での内科研修 (異動を伴う必須研修・サブスペシャルティ研修のケースを含む)											

このコースは、将来、名大の医局に入局を希望する人が対象

- ・主担当医として通算で R4 までに最低 45 疾患群以上の経験と計 80 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験すること
- ・連携施設から本プログラムへエントリーする場合には、1 年目には連携施設で研修を開始して必要症例を経験

することを想定する

- ・基幹病院への異動を伴う必須研修の時期は専攻医研修 1 年目の後半に調整を図る
- ・1 年目での連携施設における研修で経験できなかった疾患群については、2 年目の基幹病院での研修によって該当疾患群の症例を積極的に経験することとする
- ・基幹病院での異動を伴う必須研修期間は、移行措置期間には 6 ヶ月以上を想定して、移行措置期間以降には 12 ヶ月を想定する
- ・R5 では、異動を伴う必須研修・サブスペシャルティ研修などの選択をするとともに内科症例の継続的な経験を行う

* 入局について

名古屋大学は、入局して内科専攻医の皆さんのが得ることができる最大のメリットは、【医局は入局者のキャリアパス形成を保障する】という点にあると考えます。皆さんのがどのような内科医師像を思い描いているかということが、内科医師のキャリアパス形成にとって極めて重要なことになります。医局は、国内外を問わずさまざまな分野の第一線で活躍する医師、開業医の OB、国内・海外の基礎研究者、行政、学会や研究会関係の人とのつながりを持っています。医局はそのつながりを最大限に生かすことで、皆さんのが思い描く内科医師像のキャリアパスを加速度的に推進することを支援できます。一方、実際にどのようにキャリアパスを描けばよいのかを決めるることは時に難しいものであります。医局はキャリアパス形成を含めた相談に対する最大の支援者になります。さらに、自分の思い描くキャリアパスがうまくいかないこともあると思います。医局は皆さんのが受け止め最適なキャリアパスへの修正を支援します。卒後のキャリアパスを「自己決定」で切り開く先生の存在は認識しています。名古屋大学は、皆さんのが思い描くキャリアパス形成実現に向けて医局がもつポテンシャルを最大限に生かして、皆さんを支援できると考えています。さらに、名古屋大学はその先を見据えた内科領域サブスペシャルティ専門医へのキャリアパス形成を円滑に、かつ、最大限に支援します。名古屋大学の入局に対する考え方をお伝えした上で、本プログラムでの入局のタイミングと方法を下記に示します。内科専門研修開始前に入局を行なうことは、キャリアパス形成における入局のメリットを最大限に生かせるタイミングと考えています。入局を早く行なうと、指導医やローテーション研修の時に十分な指導を受けられないのではないかと心配されるかもしれません。安心してください。指導医、ローテーション研修科、名大病院、および、名大内科関連病院では、本プログラムの理念と使命を十分に理解して、指導医を代表とする全員で皆さんのが“メンター”として指導をしていきます。また、内科専門医プログラム内で期間の定められた(3 年間の研修期間の内 6 カ月以上) 異動を伴う必須研修を行なうためには、基幹病院および連携病院間での異動の調整が必要になります。皆さんのが異動を伴う必須研修を円滑に行なうために、入局を内科専攻研修 1 年目の 12 ヶ月までに行なうことを促します。名大病院が各地域での基幹プログラムへ連携病院として参画することで、密接な連携を維持することにより東海医療圏の極端な医師不足を回避・調整するように配慮されて、東海医療圏の患者さんが安心して最善の医療を受けられるようにしています。本プログラムにおける異動を伴う必須研修後は、原則として、研修開始時の施設で研修を行なうことと想定しています。

4) 愛知医科大学連携コース

本コースは、愛知医科大学入局希望者を対象とするコースです。日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院で専門研修終了後に愛知医科大学への入局希望者は年間1名程度の実績があり本コースを準備しました。

R3, R4の2年間は赤十字連携コースと同様に研修を行います。地域研修先は、清水赤十字病院、浦河赤十字病院、石巻赤十字病院、高山赤十字病院、名古屋市立大学病院、東部医療センター、国立循環器病研究センター、津島市民病院、春日井市民病院、岐阜県立多治見病院、公立西知多総合病院、知多厚生病院になっています。これらの研修先の中から6か月の地域研修先を自由に選択できます。なお、地域研修の単位は、1施設最低3か月の期間が必要となります。

また、基幹病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院では膠原病・リウマチ領域における症例に関して、2018年度からは総合内科で症例を確保できます。そのため、膠原病・リウマチ領域における症例の不足も解消される見込みはありますが、定員に対する症例数をさらに十分に補えるよう、以前から症例の相談などを行ってきた横浜市立みなと赤十字病院の膠原病リウマチ内科、広島赤十字・原爆病院リウマチ科を専攻医の連携研修先に含め、状況に応じて院内・院外での研修の選択を可能にしています。

R5の残りの期間は、愛知医科大学病院で研修を行います。移行措置期間終了後は院外研修が12ヶ月になるように選択する必要があります。サブスペシャルティを早めに開始したい専攻医のために、研修開始から24ヶ月の期間でローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として56疾患群、120症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約が作成できたと認められる内科専攻医に対して、専門領域に対するサブスペシャルティ研修を行なえる環境を整えています。愛知医科大学病院で研修期間を利用して進路希望科（サブスペシャルティ）研修にあてることが可能です。さらに、自主性のある専攻医に対しては全70疾患群、計200症例を経験できる環境を整えます。

4) 愛知医科大学連携コース

（例）内科8科と救急を2か月毎にローテート、膠原病研修で横浜を選択、地域研修で清水と石巻を3か月ずつ選択した場合

ある専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	循環器	呼吸器	消化器	神経	救急 (R3のみ)	内分泌						
R4	腎臓	血液	総合内科	膠原病 (院外：横浜)	地域 (清水)							
R5	地域 (石巻)			愛知医科大学病院								

このコース選択にあたっては、将来、愛知医科大学に入局を希望する人が対象

・R3～4の2年間で45疾患群以上・計80例以上の主担当医経験が必要

- ・膠原病症例の経験は、院内研修または、院外（横浜 or 広島）で状況に応じて選択する。
- ・3年間のうち6か月は清水日赤・浦河日赤・石巻日赤・高山日赤・名市大・東部医療センター・国立循環器病研究センター・津島市民病院・春日井市民病院・知多厚生病院の中から選択して地域研修が必要。なお、地域研修の単位は1施設最低3か月の期間が必要です。
- ・救急2ヶ月は必修で原則としてR3にロートートする。
- ・R5での9か月間は愛知医科大学病院で研修する。
- ・53疾患群+3（総合内科ⅠⅡⅢ）の計56疾患群・計120症例の修了する見込みが立てば、進路希望科
(サブスペシャルティ) 研修を早くから開始することも可能：愛知医大病院において最大9か月

5) 藤田医科大学連携コース

本コースは、藤田医科大学入局希望者を対象とするコースです。日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院で専門研修終了後に藤田医科大学への入局希望者のために本コースを準備しました。

R3, R4の2年間は赤十字連携コースと同様に研修を行います。地域研修先は、清水赤十字病院・浦河赤十字病院、石巻赤十字病院、高山赤十字病院、名古屋市立大学病院、東部医療センター、国立循環器病研究センター、津島市民病院、春日井市民病院、岐阜県立多治見病院、公立西知多総合病院、知多厚生病院になっています。これらの研修先の中から6か月の地域研修先を自由に選択できます。なお、地域研修の単位は、1施設最低3か月の期間が必要となります。

また、基幹病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院では膠原病・リウマチ領域における症例に関して、2018年度からは総合内科で症例を確保できます。そのため、膠原病・リウマチ領域における症例の不足も解消される見込みはありますが、定員に対する症例数をさらに十分に補えるよう、以前から症例の相談などを行ってきた横浜市立みなと赤十字病院の膠原病リウマチ内科、広島赤十字・原爆病院リウマチ科を専攻医の連携研修先に含め、状況に応じて院内・院外での研修の選択を可能にしています。

R5の残りの期間は、藤田医科大学病院で研修を行います。移行措置期間終了後は院外研修が12ヶ月になるように選択する必要があります。サブスペシャルティを早めに開始したい専攻医のために、研修開始から24ヶ月の期間でローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として56疾患群、120症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約が作成できたと認められる内科専攻医に対して、専門領域に対するサブスペシャルティ研修を行なえる環境を整えています。藤田医科大学病院で研修期間を利用して進路希望科（サブスペシャルティ）研修にあてることが可能です。さらに、自主性のある専攻医に対しては全70疾患群、計200症例を経験できる環境を整えます。

5) 藤田医科大学連携コース

(例) 内科 8 科と救急を 2 か月毎にローテート、膠原病研修で横浜を選択、地域研修で清水と石巻を 3 か月ずつ選択した場合

ある 専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	循環器	呼吸器	消化器	神経	救急 (R3のみ)	内分必						
R4	腎臓	血液	総合内科	膠原病 (院外: 横浜)	地域 (清水)							
R5	地域 (石巻)			藤田医科大学病院								

このコース選択にあたっては、将来、藤田医科大学に入局を希望する人が対象

- ・R3～4 の 2 年間で 45 疾患群以上・計 80 例以上の主担当医経験が必要
 - ・膠原病症例の経験は、院内研修または、院外（横浜 or 広島）で状況に応じて選択する。
 - ・3 年間のうち 6 か月は清水日赤・浦河日赤・石巻日赤・高山日赤・名市大・東部医療センター・国立循環器病研究センター・津島市民病院・春日井市民病院・知多厚生病院の中から選択して地域研修が必要。なお、地域研修の単位は 1 施設最低 3 か月の期間が必要です。
 - ・救急 2 ヶ月は必修で原則として R3 にローテートする。
 - ・R5 での 9 か月間は藤田医科大学病院で研修する。
 - ・53 疾患群 + 3 (総合内科 I II III) の計 56 疾患群・計 120 症例の修了する見込みが立てば、進路希望科
- (サブスペシャルティ) 研修を早くから開始することも可能：藤田医大病院において最大 9 か月

6) 自治医科大学連携コース

本コースは、自治医大卒業で内科専門医を目指す専攻医を対象とするコースです。基幹病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院は、愛知県から地域医療に従事する自治医大卒の受入れを年間 1 名程度委託されてきた実績があり、本コースを準備しました。

卒後 4 年目 R4 から専攻医研修を開始します。R4 は、新城市民病院、足助厚生病院、東栄医療センター・内科新城市民病院のいずれかで研修をし、R5 からは日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（基幹病院）で研修を行います。基幹病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院で 8 つの内科と救急の研修（2 ヶ月必修）を行います。基幹病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院では膠原病・リウマチ領域における症例に関して、2018 年度からは総合内科で症例を確保できます。そのため、膠原病・リウマチ領域における症例の不足も解消される見込みはありますが、定員に対する症例数をさらに十分に補えるよう、以前から症例の相談などを行ってきた横浜市立みなど赤十字病院の膠原病リウマチ内科、広島赤十字・原爆病院リウマチ科を専攻医の連携研修先に含め、状況に応じて院内・院外での研修の選択を可能にしています。R6 の「院内選択」は不足症例の補充、または、サブスペシャルティを早めに開始したい専攻医のために、研修開始から 24 カ月の期間でローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当医として 56 疾患群、120 症例以上を

症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約が作成できたと認められる内科専攻医に対して、専門領域に対するサブスペシャルティ研修を行なえる環境を整えています。（最大 3か月）。さらに、自主性のある専攻医に対しては全 70 疾患群、計 200 症例を経験できる環境を整えます。

6)自治医大卒内科コース

ある 専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R4	新城市民病院/足助厚生病院/東栄病院・内科（義務年限対応）											
R5	循環器	呼吸器		消化器		神経		救急		内分泌		
R6	腎臓	血液		総合内科		膠原病 (院外：横浜or広島)		院内選択 (不足分・進路希望)				

このコース選択は自治医大卒業で内科専門医を目指す専攻医が対象（愛知県職員）卒後 4 年目から開始

- ・R4～5 の 2 年間で 56 疾患群以上・計 120 例以上の主治医経験が必要
 - ・R4 は、新城市民病院/足助厚生病院/東栄医療センターで研修する。
 - ・R5 からは日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（基幹病院）で研修を行う。内科各科と救急を 1～3 か月単位で自由に期間選択でき、R5 4 月から 12～18 か月でローテートする。
 - ・救急 2 ヶ月は必修で原則として R4 にローテートする。
 - ・膠原病症例の経験は、院内研修または、院外（横浜 or 広島）で状況に応じて選択する。
 - ・R6 の「院内選択」は 3 か月の期間のみ（R5 修了の時点での不足症例を補充または、進路希望科研修）
 - ・53 疾患群 + 3（総合内科 I II III）の計 56 疾患群・計 120 症例の修了する見込みが立てば、進路希望科
- （サブスペシャルティ）研修を早くから開始することも可能：最大 3 か月

2). 指導医は、内科専門研修期間中、内科専門医としてのキャリアパス形成に責任を持って指導を行ないます。本プログラムの理念と使命を十分に理解した指導医が“メンター”として指導をしていきます。

3). 週間スケジュール例：（例：総合内科）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:00～8:30			EBM round		
8:30～9:00	Morning Conference	Morning Conference	Morning Conference	Morning Conference	Morning Conference
9:00～12:30	*外来研修	病棟回診	*外来研修	病棟回診	病棟回診
12:30～13:15	昼食	昼食	薬品勉強会	ER/GIM カンファレンス	昼食
13:15～14:00	HCU 多職種 カンファレンス	病棟回診	1-7W 多職種 カンファレンス	13:30～ 3-3 多職種 カンファレンス	1-7E 多職種 カンファレンス
14:00～15:00	Afternoon Conference	Afternoon Conference	Afternoon Conference	Afternoon Conference	Afternoon Conference
15:00～17:00	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診

- ・ローテーション診療科夜間当番・待機当番・救急当番をローテーション上級医の指導・承認のもと経験します。
- ・救急当直を経験します。
- ・主たる担当医となっている症例については、毎日診察を行ない、カルテ記載と必要な評価・指示をすることが業務として含まれています。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～22】

(1) 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 教育研修推進室の役割

- ・日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
- ・日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・3か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・教育研修推進室は、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、サブスペシャルティ上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指

名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、教育研修推進室もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して5名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLERに登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果はJ-OSLERを通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。

- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医1人に1人の担当指導医（メンター）が日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。

①形成的評価

形成的評価は研修中に行われる評価であり、専攻医の研修記録に対して指導医が評価を実施するとともに専攻医にフィードバックし、評価そのものにより医師としての成長を促すことを目的としている。

専門研修では領域内の各分野を基幹施設と連携施設、さらには特別連携施設をローテーションするので、3年間を通じて研修状況の継続的な記録と把握が必要になる。このため、日本内科学会が構築しJ-OSLERを利用する。利用者（専攻医、指導医、日本内科学会病歴要約二次査読委員等）は日本内科学会が定める所定事項に則って利用することが求められる。

- ・専攻医はその研修内容をJ-OSLERに登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認します。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。年に複数回、自己評価、指導医による評価、ならびにメディカルスタッフによる360度評価を行い結果はJ-OSLERを通じて集計され、担当指導医によって専攻医にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・専攻医は、専門研修（専攻医）2年修了時までに29症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLERに登録します。担当指導医プログラム内の病歴指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、指導医、病歴要約二次評価査読委員による評価とフィードバックが行われ、専門研修3年次修了までにすべての病歴要約が受理されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

②総括的評価

・専攻医は、1年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める70疾患群のうち20疾患群、40症例以上の経験と登録を行うようにします。2年目専門研修終了時に70疾患群のうち45疾患群、80症例以上の経験と登録を行うようにします。3年目専門研修終了時には70疾患群のうち56疾患群、120症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価や教育研修推進室により研修の進捗状況を把握します。専攻医はサブスペシャルティの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とサブスペシャルティの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

- ・担当指導医はサブスペシャルティ上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設または連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果は年度ごとに日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修管理委員会で検討され、統括責任者が最終承認を行います。

(4) 修了判定のプロセス【整備基準 53】

- 1) 担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、以下 I)～VI) の修了を確認します。
 - I) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は最大 12 まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済み。
 - II) 29 病歴要約の二次査読による外部評価とフィードバックを受け、指摘事項に基づく改訂を査読アクセプトされるまで継続します。
 - III) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
 - IV) JMECC 受講
 - V) プログラムで定める講習会受講
 - VI) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
- 2) 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) 多職種評価

多職種による内科専門研修評価を行います。評価表では社会人としての適性、医師としての適性、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、統括責任者が各施設の研修委員会に委託して 2 名から 5 名までの異なる職種による評価を実施します。その結果は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します。

評価結果をもとに担当指導医がフィードバックを行って専攻医に改善を促します。改善状況を確認し、形成的な評価として年に複数回の評価を行います。ただし、1 年間に複数の施設に在籍する場合には、各施設で評価を行うことが望ましいです。これらの評価を参考に、修了判定時に医師としての社会人適性を判断します。

また新制度開始後、専門研修をめぐる社会情勢の変化（医師偏在や医師不足の顕在化、コロナ禍、医師の働き方改革、医師法や医療法の改正など）がありました。今後も専門研修をめぐる社会情勢を踏まえつつ、持続可能な研修プログラムの見直しを引き続き行います。

(6) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、J-OSLER を用います。なお、「日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二

病院内科専門研修指導医マニュアル」【整備基準 45】と別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37～39】

(P. 82 「日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

- 1) 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
 - I) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）、事務局代表者、内科サブスペシャルティ分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます（P. 82 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）。日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修管理委員会の事務局を、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院教育研修推進室におきます。
 - II) 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設とともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年年 1 回開催する日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設とともに、毎年 4 月頃に、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

- ① 前年度の診療実績
 - a) 病院病床数, b) 内科病床数, c) 内科診療科数, d) 1か月あたり内科外来患者数, e) 1か月あたり内科入院患者数, f) 剖検数
- ② 専門研修指導医数および専攻医数
 - a) 前年度の専攻医の指導実績, b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数, c) 今年度の専攻医数, d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数.
- ③ 前年度の学術活動
 - a) 学会発表, b) 論文発表
- ④ 施設状況
 - a) 施設区分, b) 指導可能領域, c) 内科カンファレンス, d) 他科との合同カンファレンス, e) 抄読会, f) 机, g) 図書館, h) 文献検索システム, i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会, j) JMECC の開催.
- ⑤ サブスペシャルティ領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18, 43】

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。本プログラムでは基幹施設、連携施設の所属の如何に関わらず、内科専門研修を行なう施設における就業規則と給与規則に準じて就業環境を整えていますが、異動を伴う必須研修の場合には、病院間の調整で定めた就労規則と給与規則に従って内科専門研修を行ないます。

基幹施設である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の整備状況：

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院常勤嘱託職員として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康対策室）があります。
- ・ハラスメント委員がハラスメント問題に対処します。
- ・女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P24、「日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

2024 年より医師の働き方改革が始まったことにともない、専攻医のみならず指導医の労働環境についても配慮します。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

- 1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価 J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
- 2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。
 - ① 即時改善を要する事項
 - ② 年度内に改善を要する事項
 - ③ 数年をかけて改善を要する事項
 - ④ 内科領域全体で改善を要する事項
 - ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・担当指導医、施設の内科研修委員会、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研

修状況を定期的にモニタし、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムを評価します。

・担当指導医、各施設の内科研修委員会、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院教育研修推進室と日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム管理委員会は、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院のホームページ等を通じて、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の HP にて採用・見学、専攻医の募集要項に従って応募します。書類選考および面接を行い、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。スケジュールは日本専門医機構の定める登録期間に準じて設定し公示します。

(問い合わせ先) 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 教育研修管理課

TEL : 052-832-1121 (内線 : 51161)

E-mail: education@nagoya2.jrc.or.jp

HP: <https://www.nagoya2.jrc.or.jp/guidance/senkou-koukikensyuu/>

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに日本赤十字

社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLERへの登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。週31時間未満の勤務時間となる場合は、時短勤務の扱いとなります。これについては別途、用意された『内科領域カリキュラム制(単位制)による研修制度』を適用することで、研修期間として換算することができます。ただし、週31時間以上のフルタイムで勤務を行なった場合と比べ、有効な研修期間は短くなります。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群

研修プログラム概念図

研修期間：3年間（原則、基幹施設2年間+連携施設1年間）

1)赤十字連携コース

（例）院内各科2か月ずつ、膠原病研修を横浜、地域研修を清水・石巻・高山で3か月ずつ選択した場合

ある 専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	循環器	呼吸器	消化器	神経	救急	内分泌						
R4	腎臓	血液	総合内科	膠原病 (院外：横浜)	地域 (清水)							
R5	地域 (石巻)	地域 (高山)	院内 選択	院内選択	院内選択 (不足分・進路希望)							

このコース選択にあたっては、大学の医局への入局は必要ではない。

- ・R3～4の2年間で45疾患群以上・計80例以上の主担当医経験が必要
- ・院内ローテは各科1～3か月で自由に期間選択できるので、研修開始からR4の9月までのうちに院内研修で内科8科+救急を、トータル12～18か月でローテートする。
- ・救急2ヶ月は必修で原則としてR3にローテートする。
- ・膠原病症例の経験は、院内研修または、院外（横浜or広島）で状況に応じて選択する。
- ・地域研修を清水日赤・浦河日赤・石巻日赤・高山日赤・循環器病センター・東部医療センター・名市大・津島市民病院・春日井市民病院・岐阜県立多治見病院・公立西知多総合病院・知多厚生病院から6～12か月程度の期間で組み合わせて選択する。なお、地域研修の単位は1施設最低3か月の期間が必要。
- ・R5の「院内選択（基幹病院）」はR4修了の時点で症例が不足する場合、1か月、2か月、3か月の期間を設定して不足症例を補充
- ・53疾患群+3（総合内科ⅠⅡⅢ）の計56疾患群・計120症例の修了する見込みが立てば、院内・院外研修終了専攻医は進路希望科（サブスペシャルティ）研修を早くから開始することも可能

2)名古屋市立大学連携コース

（例）院内各科2か月ずつ、膠原病を横浜、地域を清水・東部医療センター・名市大で3か月ずつ選択した場合

ある 専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	循環器	呼吸器	消化器	神経	救急	内分泌						
R4	腎臓	血液	総合内科	膠原病 (院外：横浜)	地域 (清水日赤)							
R5	地域 (東部医療センター)	地域 (名市大)	院内 選択	院内選択	院内選択 (不足分・進路希望)							

このコース選択にあたっては、将来、名市大系の医局に入局を希望する人が対象（必須ではない）

- ・R3～4 の 2 年間で 45 疾患群以上・計 80 例以上の主担当医経験が必要
- ・院内ローテは各科 1～3 か月で自由に期間選択できるので、研修開始から R4 の 9 月までのうちに院内研修で内科 8 科+救急を 12～18 か月でローテートする。
- ・救急 2 ヶ月は必修で原則として R3 にローテートする。
- ・膠原病症例の経験は、院内研修で、または院外（横浜 or 広島）で状況に応じて選択する。
- ・地域研修を清水日赤・浦河日赤・石巻日赤・高山日赤・循環器病センター・東部医療センター・名市大・津島市民病院・春日井市民病院・岐阜県立多治見病院・公立西知多総合病院・知多厚生病院から 6～12 か月程度の期間で組み合わせて選択する。
- ・R5 の「院内選択（基幹病院）」は R4 修了の時点で症例が不足する場合 1 か月、2 か月、3 か月の期間を設定して不足症例を補充
- ・53 疾患群 + 3 （総合内科 I II III）の計 56 疾患群・計 120 症例の修了する見込みが立てば、院内・院外研修終了専攻医は進路希望科（サブスペシャルティ）研修を早くから開始することも可能

3)名古屋大学連携コース

①日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院での研修を重点的に行う場合

ある 専攻 医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	消化器	総合内 科・膠原 病	救急	呼吸器	循環器	神経	腎臓・ 膠原病	内分泌 代謝	血液			
R4	連携病院での異動を伴う必須研修											
R5	名古屋第二赤十字病院でのプログラムに対する調整期間											
	研修開始基幹・連携病院での内科研修 (異動を伴う必須研修・subspecialty研修のケースを含む)											

このコースは、将来、名大の医局に入局を希望する人が対象

- ・主担当医として通算で R4 までに最低 45 疾患群以上の経験と計 80 症例以上の症例（外来症例は最大 1 つまで含むことができる）を経験すること
- ・各専攻医に対する指導医は、不足の疾患群の把握を行ない、必要症例数を経験させる
- ・基幹・連携病院での異動を伴う必須研修期間は名大関連施設で 6 ヶ月以上が必要。名大関連施設以外でも 6 か月以下の期間で選択可能。・選択カリキュラム数（1 個・複数）およびその期間は自由度を持たせる
- ・救急 2 ヶ月は必修で原則として R3 にローテートする
- ・R5 では、異動を伴う必須研修・サブスペシャルティ研修などの選択をするとともに内科症例の継続的な経験を行う

②連携施設での研修を重点的に行う場合

ある専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	連携施設での研修											
R4	プログラムに対する調整期間 名古屋第二赤十字病院での研修											
R5	研修開始基幹・連携病院での内科研修 (異動を伴う必須研修・subspecialty研修のケースを含む)											

このコースは、将来、名大の医局に入局を希望する人が対象

- ・主担当医として通算で R4 までに最低 45 疾患群以上の経験と計 80 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験すること
- ・連携施設から本プログラムへエントリーする場合には、1 年目には連携施設で研修を開始して必要症例を経験することを想定する
- ・基幹病院への異動を伴う必須研修の時期は専攻医研修 1 年目の後半に調整を図る
- ・1 年目での連携施設における研修で経験できなかった疾患群については、2 年目の基幹病院での研修によって該当疾患群の症例を積極的に経験することとする
- ・基幹病院での異動を伴う必須研修期間は、移行措置期間には 6 ヶ月以上を想定して、移行措置期間以降には 12 ヶ月を想定する
- ・R5 では、異動を伴う必須研修・サブスペシャルティ研修などの選択をするとともに内科症例の継続的な経験を行う

4)愛知医科大学連携コース

(例) 内科 8 科と救急を 2 か月毎にローテート、膠原病研修で横浜を選択、地域研修で清水と石巻を 3 か月ずつを選択した場合

ある専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
R3	循環器		呼吸器		消化器		神経		救急		内分泌			
R4	腎臓		血液		総合内科		膠原病 (院外：横浜)			地域 (清水日赤)				
R5	地域 (石巻)			愛知医科大学病院										

このコース選択にあたっては、将来、愛知医科大学に入局を希望する人が対象

- ・R3～4 の 2 年間で 45 疾患群以上・計 80 例以上の主治医経験が必要

- ・膠原病症例の経験は、院内研修または、院外（横浜 or 広島）で状況に応じて選択する。.
- ・3年間のうち6か月は清水日赤・浦河日赤・石巻日赤・高山日赤・名市大・東部医療センター・国立循環器病センター・津島市民病院・春日井市民病院・岐阜県立多治見病院・公立西知多総合病院・知多厚生病院の中から選択して地域研修が必要。なお、地域研修の単位は1施設最低3か月の期間が必要です。
- ・R5での9か月間は愛知医科大学病院で研修する。
- ・53疾患群+3（総合内科ⅠⅡⅢ）の計56疾患群・計120症例の修了する見込みが立てば、進路希望科

(サブスペシャルティ) 研修を早くから開始することも可能：愛知医大病院において最大9か月

5) 藤田医科大学連携コース

(例) 内科8科と救急を2か月毎にローテート、膠原病研修で横浜を選択、地域研修で清水と石巻を3か月ずつを選択した場合

ある 専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R3	循環器	呼吸器	消化器	神経	救急	内分泌						
R4	腎臓	血液	総合内科	膠原病 (院外：横浜)	地域 (清水日赤)							
R5	地域 (石巻)			藤田医科大学病院								

このコース選択にあたっては、将来、藤田医科大学に入局を希望する人が対象

- ・R3～4の2年間で45疾患群以上・計80例以上の主治医経験が必要
- ・膠原病症例の経験は、院内研修または、院外（横浜 or 広島）で状況に応じて選択する。.
- ・3年間のうち6か月は清水日赤・浦河日赤・石巻日赤・高山日赤・名市大・東部医療センター・国立循環器病センター・津島市民病院・春日井市民病院・岐阜県立多治見病院・公立西知多総合病院・知多厚生病院の中から選択して地域研修が必要。なお、地域研修の単位は1施設最低3か月の期間が必要です。
- ・R5での9か月間は藤田医科大学病院で研修する。
- ・53疾患群+3（総合内科ⅠⅡⅢ）の計56疾患群・計120症例の修了する見込みが立てば、進路希望科

(サブスペシャルティ) 研修を早くから開始することも可能：藤田医大病院において最大9か月

6)自治医大卒内科コース

ある専攻医	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R4	新城市民病院/足助厚生病院/東栄病院・内科（義務年限対応）											
R5	循環器	呼吸器	消化器	神経	救急	内分泌						
R6	腎臓	血液	総合内科	膠原病 (院外：横浜or 広島)	院内選択 (不足分・進路希望)							

このコース選択は自治医大卒業で内科専門医を目指す専攻医が対象（愛知県職員）卒後 4 年目から開始

- ・R4～5 の 2 年間で 45 疾患群以上・計 80 例以上の主治医経験が必要
- ・R4 は、新城市民病院/足助厚生病院/東栄医療センターで研修する。
- ・R5 からは日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（基幹病院）で研修を行う。内科各科と救急を 1～3 か月単位で自由に期間選択でき、R5 4 月から 12～18 か月でローテートする。
- ・膠原病症例の経験は、院内研修または、院外（横浜 or 広島）で状況に応じて選択する。
- ・R6 の「院内選択」は 3 か月の期間のみ（R5 修了の時点での不足症例を補充または、進路希望科研修）
- ・53 疾患群 + 3（総合内科 I II III）の計 56 疾患群・計 120 症例の修了する見込みが立てば、進路希望科

（サブスペシャルティ）研修を早くから開始することも可能：最大 3 か月

表1. 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修施設群研修施設

病院	病床数	内科系診療科数	内科指導医数 (按分数)	総合内科専門医数	内科剖検数 (按分数)
日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院	801	8	20	30	7
石巻赤十字病院	460	8	18 (1)	14 (0)	7 (0)
高山赤十字病院	394	5	5 (0.3)	5 (0.3)	2 (0.3)
清水赤十字病院	80	3	1	1	0
横浜市立みなと赤十字病院	624	11	30 (0.3)	21 (0.3)	8 (0)
広島赤十字原爆病院	565	10	25	20	7
国立循環器病研究センター	527	11	82 (1.5)	53 (1.2)	21 (0.5)
中部国際医療センター	502	8	20 (1)	10 (1)	0 (0)
名古屋大学医学部附属病院	1020	9	81 (1.1)	112 (1.1)	9 (0)
JCHO 中京病院	580	8	23	25	3
名古屋掖済会病院	602	8	27 (1)	17 (1)	9 (0)
愛知県がんセンター	500	9	16 (1)	22 (1)	0 (0)
総合犬山中央病院	288	7	2 (1)	6 (1)	0 (0)
久美愛厚生病院	300	4	6 (5)	6 (6)	2 (2)
安城更生病院	771	11	38	27	5
大垣市民病院	817	7	19 (1)	22 (1)	6 (1)
市立四日市病院	537	8	12 (1)	12	1 (0)
津島市民病院	352	6	7 (2)	7 (2)	1 (0)
春日井市民病院	558	8	17	15	8
名古屋市立大学病院	800	10	(6.8)	(6.5)	(0.8)
名古屋市立大学医学部附属東部 医療センター	498	8	20 (1)	20 (0.5)	(0)
愛知医科大学病院	900	11	77 (1)	47 (1)	10 (0)
新城市民病院	199	区別なし	3 (0.3)	4 (0.3)	(0)
東栄診療所	0	3	0 (0.5)	1 (0.5)	0 (0)
JA 愛知厚生連足助厚生病院	190	1	4 (3)	(2)	(0)
藤田医科大学病院	1376	12	60	69	24
岐阜県立多治見病院	553	8	13	19	9
公立西知多総合病院	468	9	9	14	2
知多厚生病院	199	7	6	4	2
浦河赤十字病院	146	1	2	1	0

表2. 各内科専門研修施設の内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石巻赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
清水赤十字病院	○	○	○	△	○	○	△	△	○	○	△	○	○
横浜市立みなと赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
広島赤十字原爆病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立循環器病研究センター	△	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	△	○
中部国際医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
名古屋大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
JCHO中京病院	△	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△	△	○
名古屋掖済会病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
愛知県がんセンター	△	○	△	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
総合犬山中央病院	○	○	○	×	×	×	○	△	○	×	×	×	△
久美愛厚生病院	×	○	○	△	△	○	○	△	△	△	△	○	○
安城更生病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大垣市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○
市立四日市病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
津島市民病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○
春日井市民病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
名古屋市立大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○
愛知医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新城市民病院	○	○	×	×	×	△	△	×	×	×	×	×	○
東栄診療所	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
JA愛知厚生連足助厚生病院	○	○	○	×	○	×	○	×	△	×	×	○	○
藤田医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜県立多治見病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公立西知多総合病院	×	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○
知多厚生病院	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○
浦河赤十字病院	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○

各研修施設での内科13領域における診療経験の研修可能性 <○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない>

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。日本赤十字社愛知医療センターナゴヤ第2病院内科専門研修施設群研修施設は愛知県名古屋東医療圏、近隣医療圏および北海道、宮城県石巻市、岐阜県高山市、神奈川県横浜市、広島県広島市、大阪府吹田市にある医療機関から構成しています。

日本赤十字社愛知医療センターナゴヤ第2病院は、愛知県名古屋東医療圏の中心的な急性期病院です。そこででの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である名古屋大学附属病院、名古屋市立大学附属病院、愛知医科大学附属病院、藤田医科大学病院、名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、愛知県がんセンター、国立循環器病研究センター、地域基幹病院である横浜みなと赤十字病院、広島赤十字・原爆病院、高山赤十字病院、石巻赤十字病院、総合犬山中央病院、中京病院、名古屋掖済会病院、新城市民病院、中部国際医療センター、市立四日市病院、大垣市民病院、安城更生病院、津島市民病院、春日井市民病院、岐阜県立多治見病院、公立西知多総合病院および地域医療密着型病院である北海道・清水赤十字病院、久美愛厚生病院、足助厚生病院、東栄医療センターで構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、日本赤十字社愛知医療センターナゴヤ第2病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- ・ 専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- ・ 専攻医2年目から3年目にかけて、連携施設で研修をします（図1）。なお、研修達成度によってはサブスペシャルティ研修も可能です（個人により異なります）。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

愛知県名古屋東医療圏、近隣医療圏および北海道、宮城県石巻市、岐阜県高山市、大垣市、多治見市、三重県四日市市、神奈川県横浜市、広島県広島市、大阪府吹田市にある医療機関から構成しています。遠方の医療圏にある施設を含むため、移動や連携に支障をきたさないためにも1施設につき3カ月の研修を最低タームとすることを想定しています。

1) 専門研修基幹施設

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康対策室）があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準【整備基準24】 2) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域或13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準24】 3) 専門研修プログラムの環境	指導医が20名在籍しています。（下記） 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績 医療倫理2回、医療安全6回、感染対策3回） 研修施設群合同カンファレンス（2024年度1回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績10回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績13回）
認定基準【整備基準24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	内科プログラム責任者 東 慶成
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 20名 日本内科学会総合内科専門医 30名 日本消化器病学会消化器病専門医 7名 日本循環器学会循環器専門医 9名 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 4名 日本糖尿病学会専門医 4名 日本腎臓病学会専門医 4名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5名 日本血液学会血液専門医 5名 日本神経学会神経内科専門医 3名 日本アレルギー学会専門医（内科） 2名 日本感染症学会専門医 1名 日本救急医学会救急科専門医 7名
外来・入院患者数	外来患者 22,459名（1ヶ月平均実数）、入院患者 1,954名（1ヶ月平均実数）
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本感染症学会連携研修施設 胸部ステントグラフト実施施設、腹部ステントグラフト実施施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本消化器学会専門医制度指定修練施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医修練施設 日本心血管インターベーション治療学会認定研修施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本認知症学会教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
各連携施設に異動を伴う研修を行なった場合の研修の魅力について、どのような研修を受けることができますか？	【内科専攻医へのメッセージ】 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院は、名古屋市東部地域の中心的急性期総合病院です。救急・急性期医療と先進医療がバランスよく組み合わされているため、common disease の急性期の症例に加え、多彩な疾患に対する先進的な治療が経験できます。 また、診断の難しいチャレンジングな症例も数多く集まり診断推論の能力が身につきます。

2) 専門研修連携施設

日赤病院グループ

1. 石巻赤十字病院

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 安全衛生委員会およびその下部組織にメンタルヘルス対策室があります ハラスマント相談員が配置されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地外に院内保育所があり、利用可能です。病児・病後児保育も行っています。
認定基準【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 18 名在籍しています。 (2025 年 4 月現在) 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者兼プログラム管理者：副院長 富永現）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム委員会と教育研修推進室を設置しました。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (2024 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 11 回、感染対策 8 回 計 20 回) 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 C P C を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (2024 年度実績 7 回) 地域参加型のカンファレンス（石巻 COPD ネットワーク講演会、石巻喘息ネットワーク講演会、救急隊と病院スタッフによる合同勉強会、キャンサーボードを定期的に開催し、専攻医に受講の時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の時間的余裕を与えます。 (2024 年度 2 回開催) 日本専門医機構による施設実地調査に教育研修課が対応します。
認定基準【整備基準24】3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 専門研修に必要な剖検を行っています。 (2024 年度実績 7 体)
認定基準【整備基準24】4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 (2024 年度 3 回) 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	内科専門研修プログラム責任者：富永 現

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 18 名 日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 3 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 1160.8 名（1 日平均患者数）、入院患者 459.4 名（1 日平均患者数） 2024 年度
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本腎臓病学会認定教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本透析医学会教育関連施設（岩手県立中央病院） 日本神経学会准教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本東洋医学会研修施設（教育関連施設） 日本感染症学会研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本超音波医学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設指定 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本循環器学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会研修施設（連携施設）
動を伴う研修を行なった場合の研修の魅力	石巻赤十字病院は、宮城県石巻・登米・気仙沼医療圏において中心的な急性期医療と専門的医療を担う地域医療支援病院です。内科領域でも医療圏で高度急性期医療や専門的医療を要する患者が集中し専攻医は上級医の指導のもと豊富で多彩な症例を経験できます。さらに期間中に専門性の高い他の赤十字グループ病院への院外研修も選択でき、大変魅力的な研修プログラムを用意しています。東日本大震災では被災地区の第一線で活動した災害医療に対する経験豊富な施設であり、災害に関する院内研修会にも力を入れており、緊急災害医療への対応力を磨くことが可能です。

2. 清水赤十字病院

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ハラスマント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が1名在籍しています。（下記） 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
指導責任者	藤城貴教
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 1名 日本プライマリ・ケア学会専門医・指導医 1名 日本消化器病学会専門医・指導医 1名 日本消化器内視鏡学会指導医 1名 社会医学系専門医・指導医 1名 日本専門医機構 総合診療専門研修特任指導医 2名 日本救急医学会救急科専門医 1名
外来・入院患者数	外来患者 105.2名（1日平均）、入院患者 64.6名（1日平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
異動を伴う研修を行なった場合の研修の魅力	当院は地域内で唯一の公的医療機関として、内科領域の定める疾患治療を経験することができる、特に消化器、内分泌、代謝等は高齢化社会の現代において、豊富な研修が実施できると思います。更には臨床医として必要な医療・介護・保険・福祉が一体となった地域包括型医療の研修も実施し、患者及び家族のニーズを身体、心理、社会的側面から理解し、地域で暮らす生活者の健康管理となるための研修が可能です。 地域に根ざした全人的な医療の担い手として、専攻医の皆様をお待ちしております。

3. 高山赤十字病院

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 常勤医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルスサポートチーム）があります。 ハラスマント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が5名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績 医療倫理3回、医療安全12回、感染対策8回） 研修施設群合同カンファレンス（2025年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績2回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績17回）
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）すべての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。（2024年度実績4演題）
指導責任者	白子 順子 《内科専攻医へのメッセージ》 地域医療の中心となる当院では、急性期から慢性期、そして在宅となるまでを一貫して主担当医として受け持つことができます。循環器科以外は一つの内科として診療を行っているのでSubspecialtyの指導医の指導を受けつつも多疾患をもつ患者を総合的に診療できます。高山病など地域に特徴的な救急疾患も診療しています。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医5名、日本内科学会総合内科専門医5名 日本消化器病学会消化器専門医3名、日本肝臓学会専門医3名 日本消化器内視鏡学会専門医3名、日本内分泌学会専門医1名 日本循環器内科学会専門医1名 日本糖尿病学会専門医1名、日本血液学会血液専門医1名 日本呼吸器学会専門医1名、日本感染症学会専門医1名 日本救急医学会救急科専門医2名
外来・入院患者数	外来患者13,440名（1ヶ月平均）、入院患者9,210名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、 日本肝臓学会関連施設、日本血液学会専門研修教育施設、 日本脳卒中学会研修教育病院、日本内分泌学会認定教育施設 日本呼吸器学会特定地域関連施設、日本病院総合診療医学会認定施設
-----------------	--

4. 広島赤十字・原爆病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	内科指導医が25名在籍しています。 研修プログラム管理委員会を設置し、基幹施設および連携施設の研修委員会との連携を行います。 ・プログラム統括責任者：澤部 琢哉（リウマチ科部長） 院内で研修を管理する研修委員会を設置します。 ・委員長：横山 敬生（腎臓内科部長） 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績 医療倫理1回、医療安全6回、感染対策11回） 研修施設群合同カンファレンス（2025年度予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績1回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講のための時間的余裕を与えます。（2024年度実績18回）
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科の領域の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	澤部 琢哉 【内科専攻医へのメッセージ】 当病院は、地域がん診療連携拠点病院・地域医療支援病院・災害拠点病院であり、また医科・歯科の臨床研修指定病院でもある基幹病院です。多数の内科指導医・内科サブスペシャリティ専門医の指導のもと、主担当医として入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になるための研修を受けられます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7名 日本内科学会総合内科専門医 20名 日本消化器病学会消化器専門医 13名 日本肝臓学会肝臓専門医 3名 日本循環器学会循環器専門医 3名 日本内分泌学会専門医 2名 日本糖尿病学会専門医 2名 日本腎臓学会専門医 2名

	日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名 日本神経学会神経内科専門医 1名 日本血液学会認定血液専門医 6名 日本リウマチ学会専門医 2名 など
外来・入院患者延数	外来患者 27,003 名(1ヶ月平均) 入院患者 15,266 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんや循環器疾患・脳血管障害等の急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本肝臓学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本胆道学会認定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設 日本静脈経腸栄養学会認定NST 稼動施設 日本栄養療法推進協議会認定NST 稼動施設 非血縁者間骨髄採取施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会暫定処置による胃腸科指導施設 など

5. 横浜みなと赤十字病院

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 <ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・横浜市立みなと赤十字病院の常勤嘱託医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスには労働安全衛生委員会が適切に対処します。 ・ハラスメント防止規定に基づき委嘱された相談員がいます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
-------------------------------	--

認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログ ラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が30名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（プログラム統括責任者（副院長）（指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育研修センターを設置します。 ・医療倫理（2024年度実績1回）・医療安全（2024年度実績2回）・感染対策講習会（2024年度実績2回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2025年度予定）を参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2024年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（みなとセミナーなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2024年度1回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育研修センターが対応します。
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、内分泌、代謝、腎臓、血液、膠原病、アレルギー、感染症、救急科の分野で定的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも56以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2024年度実績8体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】4)学術活動の環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・臨床倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024年度実績16回）しています。 ・医療倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024年度実績6回）しています。 ・臨床試験支援センターを設置し、治験審査委員会（2024年度実績12回）、自主臨床研究審査委員会（2024年度実績13回）を定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2024年度実績6演題）をしています。
指導責任者	<p>役職：膠原病リウマチ内科部長 名前：萩山 裕之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は、横浜市の中心部である中区に立地し、山下公園、横浜中華街といった繁華街から徒歩15分という距離にあります。</p> <p>地域医療支援病院、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院に指定され、救急車の受け入れ台数は例年10,000台を超え全国でも際立つ存在となっています。</p> <p>またがんセンターや心臓病などのセンター化を進め、PET/CT、高機能MRI・CT、手術支援ロボット等々を整備し、横浜南部医療圏の地域医療の中核を担っています。</p> <p>救急医療、悪性疾患に対する集学的治療、緩和医療、地域医療機関への診療支援などを積極的に行っており、経験できる症例数は多く多彩であり、各内科系診療科の専門医・指導医が指導に当たります。</p> <p>内科専攻医として、救急から緩和、地域医療の幅広い研修や、各領域の専門性の高い研修が可能です。</p>

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 30名 日本内科学会総合内科専門医 21名 日本消化器病学会消化器専門医 7名 日本肝臓学会専門医 6名 日本循環器学会循環器専門医 9名 日本内分泌学会専門医 3名 日本腎臓病学会専門医 3名 日本糖尿病学会専門医 3名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5名 日本血液学会血液専門医 4名 日本神経学会神経内科専門医 2名 日本アレルギー学会専門医（内科） 2名 日本リウマチ学会専門医 3名 日本感染症学会専門医 1名
	外来患者 9,207 名／(内科 1ヵ月平均) 入院患者 7,968 名／日 (内科 1ヵ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本神経学会教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設

6. 浦河赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が 2 名在籍しています。 (下記) 研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 基幹施設で行う C P C の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	
指導責任者	副院長 松浦喜徳
指導医数 (常勤医)	日本内科学会 総合内科専門医 1 名 日本専門医機構特任指導医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 304 名 (1 ヶ月平均実数) , 入院患者 104 名 (1 ヶ月平均実数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	

7. 国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 非常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ハラスメント相談窓口が人事課に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<p>指導医は 82 名在籍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催し（2023 年度実績 8 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2023 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門研修に必要な剖検を行っています。（2023 年度 21 体）
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究が可能な環境が整っています。 倫理委員会が設置されています。 臨床研究推進センターが設置されています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 3 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます。（2023 年度 383 演題）
指導責任者	<p>野口 晉夫</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 82 名</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 53 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 55 名</p> <p>日本糖尿病学会専門医 7 名</p> <p>日本内分泌学会専門医 2 名</p> <p>日本腎臓病学会専門医 6 名</p> <p>日本神経学会神経内科専門医 22 名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名</p> <p>日本感染症学会専門医 1 名</p> <p>日本老年医学会老年病専門医 2 名</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 1 名</p>
外来・入院患者数	外来患者 164,222 名（2023 年実績）

	入院患者 158,364 名 (2023 年実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、24 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 など

8. 新城市民病院

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が 3 名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 5 回、感染対策 2 回） 研修施設群合同カンファレンス（2025 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（症例検討会 2019 年度実績 9 回）
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
指導責任者	榛葉 誠
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 3 名 日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本肝臓学会専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名 日本消化器病学会専門医 1 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名 日本呼吸器学会専門医 1 名 日本透析医学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 5,346 名（1 ヶ月平均）、入院患者 2,912 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設
異動を伴う研修を行なった場合の研修の魅力	<p>新城市民病院における内科研修は総合診療科を中心に行われる。初診での対応～入院、外来フォローまで、主治医として一貫して対応することを基本として、必要に応じて上級医や他科の専門科へconsultしながら治療を進めていく。</p> <p>総合診療科の入院患者数は約80名と県内でも屈指の規模を誇り、病院全体の入院の8割強を占める。</p> <p>初診には時間の余裕があり、「こなす」外来ではなく、問診・身体所見を重視しながら診療を行うことが可能である。中小病院でありながら、CT、MR Iを完備しており、基本的な検査結果は迅速に行えることから、診断までのプロセスにストレスがない。</p> <p>初診患者については毎夕、カルテチェックによる振り返りを行い、上級医からの指導を受ける。</p> <p>毎朝15分間の勉強会、週に1回のup to date 勉強会を通じて、知識の確認を行い、勉強のモチベーションを保つ。また、月に1回、外部から講師を招いてEBM勉強会を行っている。</p>

9. 中部国際医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> • 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 • 社会医療法人厚生会後期研修医として労務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。 • ハラスマント委員会が整備されています。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー、当直室が整備されています。 • 院内保育所があり、利用可能です。
------------------	--

認定基準 ②専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 20 名在籍しています（下記参照）。 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、プログラム統括責任者（糖尿病センター長・内科部長、総合内科専門医かつ指導医）、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科代表）、連携施設担当委員、及び事務局代表者で構成されます。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年実績 13 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2024 年実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型の研修会・カンファレンス（医療従事者研修会、可茂循環器セミナー、中濃医学セミナー、糖尿病オープン教室、緩和ケア研修会など：2024 年実績 29 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を推奨し、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 日本専門医機構による施設実地調査の際には、臨床研修センターが対応します。
認定基準 ③診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、内分泌代謝内科、腎臓内科で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 専門研修に必要な剖検（2024 年 2 体、2023 年 3 体、2022 年 1 体）を行っています。
認定基準 ④学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、不定期に開催（2024 年実績 12 回）しています。 治験管理室を設置し、不定期に受託研究審査会を開催（2024 年実績 12 回）しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年実績 3 演題）を行っています。
指導責任者	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>中部国際医療センターは、岐阜県中濃医療圏の中心的な急性期病院であり、中濃医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。極ありふれた Common disease から学会報告しうる稀で貴重な症例にいたるまで幅広く経験でき、無理なく専攻医として必修とされる症例を主担当医として受け持つことができます。</p> <p>また多職種のスタッフが一丸となって専攻医のために研修をサポートする体制が備わっており、夢中で過ごした初期研修のあと、じっくりと内科学の研鑽、習熟するに最適な環境のもと内科専門医を目指して下さい。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器病専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 2 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 7 名 他
外来・入院患者数	外来患者：27,900 名（1 ヶ月平均） 入院患者：13,798 名（1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域の内、概ね60疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、福祉連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本循環器科学会 循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本消化器病学会 専門医制度認定施設 日本腎臓学会 研修施設 日本透析医学会 専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会 指定施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本臨床細胞学会 施設認定 日本肝臓学会 認定施設 日本プライマリ・ケア連合学会 認定新家庭医療後期研修プログラム 日本病理学会 研修登録施設 など

名古屋大学医学部附属病院グループ

10. 名古屋大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度大学型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・医員として労務環境が保障されます。 ・メンタルヘルスに適切に対処します。 ・ハラスメントに適切に対処します。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
--------------------------------------	---

認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 81 名在籍しています（下記）。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回） 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 4 回）
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	川嶋啓揮 【内科専攻医へのメッセージ】 当施設は名大病院基幹プログラムを作成しています。一度病態内科のホームページ (https://www.med.nagoya-u.ac.jp/naika/) をご覧いただければと思います。名古屋大学の内科専門医育成の考え方を理解いただけたると考えています。施設カテゴリーでは、”アカデミア”と呼ばれるものに分類されることが多いです。名大病院へ異動を行なう研修を行なうメリットは、【アカデミアへのアーリー・エクスポージャー】ができますことだと思います。平成 28 年 1 月に名大病院は「臨床研究中核病院」に認定されました。皆さんが初期研修・内科専攻医研修期間の臨床経験から芽生えた臨床的課題を解決する方法を、この【アカデミアへのアーリー・エクスポージャー】からイメージをつかんでもらえるとよいと考えています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 81 名、日本内科学会総合専門医 112 名、日本消化器病学会専門医 54 名、日本循環器学会専門医 36 名、日本内分泌学会専門医 15 名、日本糖尿病学会専門医 14 名、日本腎臓病学会専門医 32 名、日本呼吸器学会専門医 28 名、日本血液学会専門医 25 名、日本神経学会専門医 23 名、日本アレルギー学会専門医 4 名、日本老年医学会専門医 10 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 42,675 名（1 カ月平均） 入院患者 25,947 名（1 カ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本老年医学学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本透析医学会認定医制度認定施設
日本血液学会認定研修施設
日本大腸肛門病学会専門医修練施設
日本神経学会専門医制度認定研修教育施設
日本脳卒中学会認定研修施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本内科学会認定専門医研修施設
日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
日本東洋医学会研修施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本肥満学会認定肥満症専門病院
日本感染症学会認定研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本高血圧学会高血圧専門医認定施設
日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設
日本認知症学会教育施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
など

1.1. 名古屋掖済会病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 名古屋掖済会病院常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルヘルスに適切に対処する部署(相談室ホットルーム)があります。 ハラスメント委員会が病院内に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 27 名在籍しています。 内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催(2024 年度実績 7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス(病診連携システム勉強会、中川区医師会胸部画像勉強会、中川区医師会腹部画像勉強会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2024 年度開催実績 1 回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野(少なくとも 12 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。(上記) 70 疾患群のうち(ほぼ全疾患(少なくとも 56 以上の疾患群)について研修できます。

3)診療経験の環境	・専門研修に必要な剖検(2024年度実績9体)を行っています。
認定基準 【整備基準24】	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に委員会を開催しています。
4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。(2024年度実績10演題)
指導責任者	小島 由美 【内科専攻医へのメッセージ】 名古屋掖済会病院は名古屋市南西部にあり、東海地区ではじめて認可された救命救急センターを併設した高度急性期病院です。年間10,000例以上の救急車搬入実績があり、救急疾患を含めた内科専門医研修に必要なほとんどの症例を8つの診療科(循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液内科、膠原病リウマチ内科)の豊富な経験を有する上級医の指導のもと経験することができます。新制度発足以前より後期研修医の希望に配慮したフレキシブルなローテート研修を行ってきており内科総合的な研修体制を整えてきた実績があります。各診療科のカンファレンスは充実しています。19床の緩和ケア病床を有する癌拠点病院であり、常勤病理医も4名在籍しており、キャンサーボードなどの多職種の検討会も多く実施されておりチーム医療を推進しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 27名 日本内科学会総合内科専門医 17名 日本消化器病学会専門医 5名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 5名 日本循環器学会循環器専門医 6名 内科代謝・糖尿病内科専門医 2名 日本糖尿病学会専門医 2名 日本内分泌学会内分泌代謝内科専門医 2名 日本腎臓病学会専門医 2名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名 日本血液学会血液専門医 5名 日本神経学会神経内科専門医 5名 日本アレルギー学会専門医(内科) 3名 日本救急医学会専門医(内科以外) 6名
外来・入院患者数	外来患者 25,619名(1ヵ月平均) 入院患者 16,129名(1ヵ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会専門医教育指定病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定医認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本腎臓病学会専門医研修施設 日本透析医学会専門医教育関連施設 日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設 日本神経学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会専門医研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本胆道会指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設

	日本内分泌学会認定教育施設 日本心血管インターべンション治療学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本脳卒中学会専門医研修教育病院 日本アフェレシス学会認定施設 日本臨床神経生理学会認定施設 日本不整脈心電学会専門医研修施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本リウマチ学会教育施設 補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本ステントグラフト実施基準管理委員会血管内治療実施施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 など
--	---

1.2. 愛知県がんセンター

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは医員として労務環境が保障されています。 ハラスマント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 16 名在籍しています。 医員・レジデント・臨床研修医等委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。各サブスペシャルティ分野で学会発表や論文発表を行っています。
指導責任者	山本一仁
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合専門医 22 名、日本消化器病学会消化器専門医 21 名、日本肝臓学会肝臓専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 6 名、消化器内視鏡専門医 12 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 19 名
外来・入院患者数	2024 年度：外来患者 11,659 名（1 カ月平均）入院患者 10,957 名（1 ケ月平均）
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度における教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度規則による認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本胆道学会認定指導施設 日本消化管学会指導施設 など
異動を伴う研修を行なった場合の研修の魅力	がん専門病院で基礎的な面から臨床面まで学習することができます。全国から研修に来ており、名大のみならず他大学や国立がんセンター関連のつながりもあります。研究所も併設しており、基礎的な勉強もできる環境にあります。

13. 社会医療法人志聖会 総合犬山中央病院

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が2名在籍しています。（下記） 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回） 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績1回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績3回）
認定基準【整備基準24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準【整備基準24】4) 学術活動の環	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。（2015年度実績1演題）

境	
指導責任者	竹腰 篤
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 2名 日本内科学会総合内科専門医 6名 日本消化器病学会消化器専門医 1名 日本循環器学会循環器専門医 3名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名 日本アレルギー学会専門医（内科） 1名
外来・入院患者数	外来患者 8,876 名（1ヶ月平均）、入院患者 5,590 名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院
異動を伴う研修を行なった場合の研修の魅力	受験申請に必要な症例数を満たすよう、病院全体で配慮して参ります。加えて、長年臨床教育現場での指導に当たって参りました。副院長を専任の教育担当に据え、病院を挙げての万全の体制で研修をサポート致します。 当院の研修は常に少数精鋭で行うことに重きを置いています。 それは、研修される先生方に様々な手技や症例をご経験頂き、日々ご自身のスキルが上がっていくことを実感してもらう為です。 いつでも指導医が隣にいる、安心して診療に携わる環境をご準備しています。

14. 独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・任期付常勤職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス室）があります。 ・セクハラ・パワハラ委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 23 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹施設内において研修する専攻医の研修は内科専門研修委員会と専門医プログラム推進室で管理しています。 ・地域参加型のカンファレンス・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (2023年度実績 医療倫理0回、医療安全4回、感染対策2回) ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催 (2024年度実績 4回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (2023年度 受講者5名) ・日本専門医機構による施設実地調査に専門医プログラム推進室が対応します。 ・特別連携施設（名南病院）の専門研修では、電話や週1回の中京病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。研修に必要な70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、研究部、閲覧室などを整備しています。 ・倫理委員会や治験管理室が整備され、臨床研究体制が整っています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2022年度実績5演題）をしています。
指導責任者	<p>藤城 健一郎 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は名古屋市南部地域および知多半島を中心とした地域の中核となる高度急性期病院で、臓器別に専門医と指導医資格を持った上級医による高い水準の内科専門医教育を受けることができます。もともと細やかな初期研修指導で定評がありました。しかし、2005年より2年間の全科総合初期研修後、1年間の内科総合研修を経てサブスペシャリティ診療内科医の研修へと進む体制を整え、積極的な内科総合後期研修にも努めてきた実績のある病院です。当院は全国に約450施設あるがん診療連携拠点病院の一つに指定されており、がん診療に重点を置いています。また、国の4疾患に指定されているがん以外の糖尿病・循環器病・脳卒中に加え、腎臓病・膠原病リウマチに関してもセンター化し、関連複数診療科による横断的診療や多職種による包括的カンファレンスが効率的に行えるようにするなど、内科全体の検討会とともに各内科専門的視点のみならず総合的な質の高い内科医療を研修・実践できる環境を整えています。加えて、1次・2次救急医療は勿論、3次救急に特化した救急科があり、様々なレベルの救急医療における内科専門医としての医療が経験できます。また、禁煙外来や併設健診センターでの患者指導といった疾病予防医療も積極的に実践できます。疾病予防から一般内科・内科専門および高度救急医療・回復期医療といった時代のニーズにあった内科専門医を養成するプログラムを提供します。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 25名、 日本内科学会総合内科専門医 25名 日本消化器病学会消化器専門医 7名、 日本循環器学会循環器専門医 6名、 日本内分泌学会専門医 3名、 日本糖尿病学会専門医 3名、 日本腎臓学会専門医 2名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5名、 日本血液学会血液専門医 1名、 日本神経学会神経内科専門医 4名、 日本アレルギー学会専門医（内科） 1名、 日本リウマチ学会専門医 0名、 日本感染症学会専門医 3名、 日本救急医学会救急科専門医 1名、ほか
外来・入院患者数	外来患者21,443名（1ヶ月平均） 入院患者13,408名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら

能	ら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会連携施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 I C D/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

15. JA岐阜厚生連 久美愛厚生病院

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 久美愛厚生病院常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（企画総務課）があります。 ハラスマントに対する窓口を設置し、男女別の担当者を配置しています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 院内に保育所「あいりすルームたかやま」があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が5名在籍しています。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 C P Cを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。内分泌、代謝、神経、血液については外来診療の研修が可能です。
認定基準【整備基準 24】4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	横山敏之

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 6名 日本内科学会総合内科専門医 6名 日本消化器病学会消化器専門医 2名 日本循環器学会循環器専門医 2名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名 日本感染症学会専門医 1名
外来・入院患者数	外来患者(延べ)99,879名(1ヶ月平均 8,323名) 入院患者(延べ)65,218名(1ヶ月平均 5,435名)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。また、付随する緩和ケア治療、終末期医療についても経験できます
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。住民健診や保健指導など地域の健康維持に関わる活動ができます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
異動を伴う研修を行なった場合の研修の魅力	当院は、飛騨地域において急性期医療から慢性期にいたるまで、また、予防医療についても役割を担っており、地域に根付いた全人的な内科診療を経験することができます。地域包括ケア病棟や緩和ケア病棟もあり、幅広い医療の研修が可能です。 内科は専門で細分化されていません。コモンな疾患から希な疾患まで、幅広く診療できるように優先的に主治医になっていただきます。入院患者の主治医になっていただき、副主治医として各専門科の指導医が担当します。外来は、初診外来を担当していただきます。再診枠については、6カ月以下の研修の場合は曜日を固定せず、専攻医の希望の日時に予約を入れて診察します。へき地診療所の診察に出張していただく場合があります。

1.6. 安城更生病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です 研修に必要な図書室とインターネット環境があります 安城更生病院常勤医師として労務環境が保障されています メンタルストレスに適切に対処します ハラスメントに適切に対処します 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています 敷地内に院内保育所があり、利用することができます
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 36 名在籍しています 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、各診療部長は、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修委員会を設置します 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます

	<ul style="list-style-type: none"> • CPC を定期的に開催（2023 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます • 地域参加型のカンファレンス（イブニングカンファレンス、DMカンファレンス、西三河神経内科カンファレンス、安城循環器疾患病診の会、TAK循環器症例研究会、三河血液疾患診療ネットワーク、西三河心不全多職種連携セミナー、緩和医療センター地域医療交流会、病棟マネジメントセミナー in 西三河、西三河在宅医療連携 WEB セミナー、救急症例検討会、安城市医師会との講演会・症例検討会：を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます • JMECC 受講（2023 年度 1 回：受講者 11 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます • 日本専門医機構による施設実地調査に教育研修・臨床研修センターが対応します
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> • カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています • 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます • 専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 5 体）を行っています
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> • 臨床研究に必要な図書室などを整備しています • 倫理委員会を設置し、講演会も定期的に開催（2023 年度実績 1 回）しています • 治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2023 年度 9 回）しています • 日本国内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度 実績 3 演題）をしています
指導責任者	<p>竹本憲二 【内科専門医へのメッセージ】</p> <p>安城更生病院は、愛知県西三河南部西医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診連携・病病連携の中核です。内科入院患者数約 8,600 名/年間、新外来患者数約 16,100 名/年間、救急車来院患者数約 9,000 台/年間と、専攻医にとって多くの症例が経験できるのが魅力です。包括的で全人的な医療を実践できる人間性豊かな内科医を育成する場であるとともに、実践的な研修が行える病院です。指導医が充実しており、かつ教育体制も整っております。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 36 名、日本内科学会総合内科専門医 27 名、日本消化器病学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 8 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 5 名、日本血液学会専門医 6 名、日本神経学会専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 763.9 名（1 日平均）入院患者 324.3 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> • 日本国内科学会認定医制度教育病院 • 日本血液学会専門医制度研修施設 • 日本国内学会専門医制度認定教育施設 • 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 • 日本甲状腺学会専門医制度認定専門医施設 • 日本国消化器病学会専門医制度基幹研修施設 • 日本国消化器内視鏡学会専門医制度指導施設

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本肝臓学会専門医制度認定施設 ・日本神経学会専門医制度教育施設 ・日本脳卒中学会専門医制度認定研修教育病院 ・日本循環器学会認定専門医制度研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ・日本透析医学会専門医制度認定施設 ・日本腎臓学会専門医制度基幹研修施設 ・日本呼吸器学会専門医制度認定施設 ・日本アレルギー学会専門医制度認定教育施設 ・日本リウマチ学会専門医制度研修施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設 ・日本がん治療医認定機構認定研修施設 ・日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 ・日本緩和医療学会認定研修施設 ・日本高血圧学会専門医認定施設 ・日本胆道学会指導施設 ・日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設　など
--	--

17. 大垣市民病院

認定基準 【整備基準23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大垣市民病院正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神神経科医師）があります。 ・ハラスマント委員会が設置されており病院内に担当者（庶務課長）が常駐しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は19名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院长）、プログラム管理者（診療部長）（ともに日本内科学会指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2024年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2024年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病院連携カンファレンス 2024年度実績4回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群の全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2022年度9体、2023年度4体、2024年度8体）を行って

	います。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・臨床倫理委員会を設置し開催（2024年度実績7回）しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し開催（2024年度実績12回）しています。 ・治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2024年度実績12回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間3演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>傍島裕司</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大垣市民病院は岐阜県西濃地区（対象人口約38万人）の中核病院で、救急医療が盛んで一次から三次まで数多くの救急患者を扱っています。また、各疾患の症例数も東海地区では最も多く、内科の専門研修で症例の収集に困ることはありません。一方で、当院の特徴は市中病院でありながらリサーチマインドが盛んであることです。ホームページ（http://www.ogaki-mh.jp）を見ていただければわかりますが英語を含めた多くの論文および全国レベルでの発表をしています。各分野で多くの指導医、専門医もそろっており、内科専門医制度で資格を取得するには最適の病院と自負しています。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 19名、日本内科学会総合内科専門医 22名 日本肝臓学会専門医 3名、日本消化器学会消化器専門医 8名、日本循環器学会循環器専門医 9名、日本糖尿病学会専門医 4名、日本内分泌学会専門医 1名、日本腎臓学会専門医 5名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名、日本血液学会血液専門医 5名、日本神経学会神経内科専門医 1名、日本アレルギー学会専門医（内科）2名、日本感染症学会専門医 0名、日本臨床腫瘍学会 1名
外来・入院 患者数	外来患者 15,431名（1ヶ月平均、延べ、時間外を含む）、入院患者 8,649名（1ヶ月平均 延べ） 内科分のみ
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医 療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病々連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設

	日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 I C D /両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など
--	---

18. 市立四日市病院

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 常勤の任期付正職員として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 隣接する敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 12 名在籍しています(下記)。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (2023 年度実績 医療安全 3 回、感染対策 3 回、2024 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回) 研修施設群合同カンファレンス（予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 C P C を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (2024 年度実績 1 回) 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準【整備基準24】3)診療経験の環境	<p>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <p>・専門研修に必要な剖検（2022年度5体、2023年度6体、2024年度1体）を行っています。</p>
認定基準【整備基準24】4)学術活動の環境	<p>・倫理委員会を定期的に開催しています。（2022年度1回、2023年度1回、2024年度1回）</p> <p>・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2024年度実績6回）しています。</p> <p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を行つようになります。</p>
指導責任者	渡邊 純二（副院長）
指導医数（常勤医）	<p>日本内科学会指導医 12名</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 12名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 5名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 5名</p> <p>日本内分泌学会専門医 1名</p> <p>日本糖尿病学会専門医 1名</p> <p>日本腎臓病学会専門医 3名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名</p> <p>日本血液学会血液専門医 1名</p> <p>日本神経学会神経内科専門医 5名</p> <p>日本アレルギー学会専門医（内科） 1名</p> <p>日本リウマチ学会専門医 0名</p> <p>日本感染症学会専門医 0名</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 0名</p>
外来・入院患者数	外来患者 11,611名（1ヶ月平均）入院患者 5,549名（1ヶ月平均）※2024年度内科
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	<p>日本内科学会認定制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓病学会研修施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本老年医学会認定施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p> <p>日本透析医学会認定医制度認定施設</p>

	日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 I C D/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）実施施設 日本血液学会認定血液研修施設 など
--	---

19. 津島市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。 メンタルヘルスに適切に対処する部署（健康管理室）があります 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 7 名在籍しています 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回） 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	新美 由紀
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7 名 日本内科学会認定内科医 12 名 日本専門医機構認定内科専門医 5 名 日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器病専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医(内科)3 名 日本消化器内視鏡学会 5 名 日本肝臓学会 1 名 日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 11,010 名(1 カ月平均)　入院患者 7,996 名(1 カ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本専門医機構内科専門研修プログラム連携施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門制度関連認定施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本感染症学会研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳卒中学会一次脳卒中センター 日本肝臓学会肝臓専門医関連施設 日本臨床神経生理学会認定施設

	日本がん治療認定医機構認定研修施設
20. 春日井市民病院	
認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 春日井市春日井市常勤医師として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（春日井市人事課）があります。 ハラスメント委員会が春日井市人事課に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医は 17 名在籍しています（下記）。 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。事務局を春日井市民病院研修管理室に置きます。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（春日井医師会学術講演会、糖尿病研究会、消化器病研究会、春日井循環器研究会、春日井 CKD 連携セミナーを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 日本専門医機構による施設実地調査は、研修管理室が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 専門研修に必要な剖検（2023 年度 12 体、2024 年度 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 5 回）しています。 治験審査委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 6 回）しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 7 演題）をしています。
認定基準 【整備基準 23】 指導責任者	<p>坂 洋祐</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>春日井市民病院は尾張北部医療圏の中心的な急性期病院であり、地域の病診、病病連携の中核として地域の第一線で急性期医療を展開しています。当院では臓器別専門性を発揮しつつ社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践しています。内科の幅広い診療能力を身につけると共に医療人としてのプロフェッショナリズムを磨き、3 年目には志望するサブスペシャルティ研修に進むこともできるプログラムです。また、症例報告や臨床研究などリサーチマインドを養うことをサポートします。将来どの分野に進んでも通用する幅広い知識・技能を身につけた内科専門医の育成を目指しています。</p>
指導医数	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名

(常勤医)	日本消化器病学会消化器病専門医 7名、日本循環器学会循環器専門医 3名、 日本糖尿病学会専門医 4名、日本腎臓学会腎臓専門医 4名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名、日本神経学会神経内科専門医 4名、 日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）2名ほか
外来・入院患者数	外来患者 28,920 名（1ヶ月平均）　入院患者 13,051 名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（特別連携施設） 日本内分泌学会認定教育施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本消化管学会腸胃科指導施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（呼吸器科） 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本膵臓学会認定指導施設

2.1. 岐阜県立多治見病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・岐阜県立多治見病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神科部長が担当）があります。 ・ハラスメント委員会は、要請に応じて幹部会が開催します。また、暴言、暴力などに対しては、医事課、警備部門が対処します。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です（条件あり）。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 13 名在籍しています。 ・内科専攻研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 4 回）し、専

	<p>攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2024年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2024年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：尾張北部医療圏緩和ケア病棟連絡会議、東濃循環器研究会（オリベの会）、東濃地域連携パス合同委員会、多治見市糖尿病病診連携の会、東濃地区ICT活動研究会、東濃医学会学術集会） ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2024年度開催実績1回：受講者5名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2024年度9体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024年度実績7回）しています。また、臨床研究に関しては、23件を審議し承認しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
認定基準 【整備基準23】 指導責任者	<p>日比野 剛 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>岐阜県立多治見病院は、岐阜県東濃医療圏の中心的な急性期病院であり、東濃医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 13名、日本内科学会総合内科専門医 19名、 日本消化器病学会消化器病専門医 8名、日本循環器学会循環器専門医 6名、 日本腎臓学会専門医 2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6名、 日本神経学会神経内科専門医 2名、日本血液学会血液専門医 4名、 日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）3名、 日本救急医学会救急科専門医 2名ほか
外来・入院患者数	外来患者 22,102名（1ヶ月平均延数） 入院患者 11,628名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会新専門医制度基幹施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本感染症学会連携研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本臍臓学会認定指導施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 ほか
-----------------	--

2.2. 公立西知多総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度大学型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 常勤医師もしくは医員として労務環境が保障されます。 メンタルストレスに適切に対処する部署(人事管理室)があります。 ハラスメント委員会が病院内に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が9名在籍しています(下記)。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2024年度実績 医療倫理1回、医療安全7回、感染対策6回) 研修施設群合同カンファレンス(2024年度、1回)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2024年度実績4回) 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検(2024年度実績2体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を行っています。(2024年度実績4演題)を行っています。
指導責任者	牧野光恭 【内科専攻医へのメッセージ】 当施設は平成27年5月に開院した知多半島北西部地域の中核病院で、この地域の救急・急性期医療を担って地域連携を推進しております。機器は最新のものが多く入っており、検査や治療も迅速に対応可能でICU管理も充実しております。研修は初期研修を含め意向合わせた柔軟なもので、診療科間の垣根も低く症例数も豊富なため、個人の希望に応じた充実した研修が可能です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9名 日本内科学会総合内科専門医 14名 日本消化器病学会消化器病専門医 3名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2名

	日本循環器学会循環器専門医 6名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1名 日本腎臓病学会腎臓専門医 4名 日本透析医学会透析専門医 1名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2名 日本アレルギー専門学会アレルギー専門医 2名
外来・入院患者数	外来患者 17,184 名(1ヵ月平均) 入院患者 10,320 名(1ヵ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター (PSC) 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本胆道学会指導施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本神経学会准教育施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

名古屋市立大学病院グループ

2.3. 名古屋市立大学病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・セクハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所「さくらんぼ保育園」があります。入所対象は本学の教職員（パートタイム職員を含む）および学生の子で、延長保育、夜間保育、病児・病後児保育にも利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 68 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し（2024 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 3 回）専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	<p>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (2024 年度実績 7 回)</p>
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会や同地方会にシニアレジデント（専攻医）が定常的に発表しています。 シニアレジデント（専攻医）が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。
指導責任者	<p>松川 則之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>名古屋市立大学内科専門医研修プログラムでは、救急救命センター・総合内科・総合診療科を中心に内科の垣根をなくした専門医教育を行います。大学病院は各診療科の専門医集団を特徴とします。また、地域に根差した病院群が連携病院になっています。地域に密着した”心の通った”診療経験から医師本来の心の育成を目指します。Common disease から専門性の高い希少疾患まで、大学病院だからこそ経験できる豊富な症例と地域診療の経験を基に、どんな疾患にも対応可能な知識・技術および心を兼ね備えた内科医を育成します。是非、共に内科学を学び、次世代を担える内科医を目指しましょう。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 68 名、日本内科学会総合内科専門医 65 名、日本消化器病学会消化器専門医 30 名、日本消化器内視鏡学会専門医 25 名、日本肝臓学会専門医 11 名、日本循環器学会循環器専門医 15 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本肥満学会専門医 2 名、日本老年医学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名、日本血液学会血液専門医 11 名、日本神経学会神経内科専門医 12 名、日本アレルギー学会専門医（内科）5 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本動脈硬化学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 24,388 名（新来患者数）、入院患者 19,907 名（新入院患者数）*2024 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、疾患群項目表のうち全ての領域と疾患群の症例経験が可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域に根ざした医療や病診・病病連携などを経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓病学会研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本老年医学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本血液学会認定研修施設、日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本神経学会専門医研修施設、日本内科学会認定専門医研修施設、日本老年医学会教育研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、ICD/両室ペーシング植え込み認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本感染症学会認定

	研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設、日本認知症学会教育施設、日本心血管インターべンション治療学会研修施設、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本動脈硬化学会専門医研修施設、日本心エコー図学会認定研修施設、日本循環器学会認定 経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設、日本循環器学会認定 左心耳閉鎖システム認定施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院、膠原病・リウマチ内科領域基幹施設、日本リウマチ学会教育施設
当院での研修の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市立大学病院は、特定機能病院として高度医療や急性期診療を担っており、名古屋市内および周辺地域から多数の紹介を受けているため、一般的な疾患から比較的希少な症例、多領域にまたがる複雑な症例など多くの豊富な症例を十分に経験できます。 ・各診療科専門医・指導医が多く所属し、指導体制が充実しているので、手技・技能を十分経験でき、他科との連携協力もさかんに行われているので、特定領域に偏ることなく、エビデンスに基づいた最新の標準的治療を修得することができます。 ・研修で感じる疑問に対し、臨床研究、基礎研究を行って解決しようとするリサーチマインドの素養が、大学病院では修得しやすい環境にあります。 ・高い専門性を持った専任のコメディカルも多く所属し、協力しながら全人的な患者中心のチーム医療を提供できるような研修も行うことができます。

2.4. 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室、インターネット環境があります。 ・シニアレジデントとして労務環境が整備されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（病院管理課）があります。 ・ハラスマントの防止および排除等のため、院内に相談員を設置し、ハラスマント委員会を整備しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、更衣室、当直室（シャワー室あり）等があります。 ・敷地内に、利用可能な院内保育所を設置しています。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 17 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会において施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績：医療倫理 2 回・医療安全 26 回・感染対策 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（循環器疾患医療連携カンファレンス、腎臓内科病診連携カンファレンス、わかみず消化器フォーラム、呼吸器カンファレンス、脳卒中フォーラム、糖尿病フォーラム等を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（名古屋市立東部医療センター：2023 年度開催実績 1 回、受講者 12 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、

【整備基準24】 3)診療経験の環境	血液、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2023年度実績4体）を行っています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、必要に応じ開催（2023年度実績2回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 ・専攻医が論文の筆頭者としての執筆業績があります。
指導責任者	前田 浩義 【内科専攻医へのメッセージ】 名古屋市北東部医療圏の中心的な急性期病院である当院と、近隣にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主治医として、入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指していただきます。
指導医数 (常勤医)	・日本内科学会指導医12名 ・日本内科学会総合内科専門医20名 ・日本消化器学会消化器専門医7名 ・日本肝臓学会認定肝臓専門医4名 ・日本循環器学会循環器専門医6名 ・日本糖尿病学会専門医3名 ・日本内分泌学会専門医3名 ・日本腎臓病学会専門医2名 ・日本呼吸器学会呼吸器専門医6名 ・日本血液学会血液専門医2名 ・日本神経学会神経内科専門医3名 ・日本リウマチ学会専門医1名 ・日本感染症学会感染症専門医2名
外来・入院患者数	外来患者241,604名（年間）、入院患者9,727名（年間）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、カリキュラムに示す内科領域13分野の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定内科一般教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本消化器病学会認定医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本神経学会認定教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会 認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本糖尿病学会教育関連施設、肝疾患専門医療機関、日本アレルギー学会認定教育施設、日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設、日本腎臓学会研修施設

25. 愛知医科大学病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 初期臨床研修制度基幹型相当大学病院です。 研修に必要な医学情報センター(図書館)があり、文献検索や電子ジャーナルの利用が24時間可能なインターネット環境が院内全体に整っています。 専攻医は、愛知医科大学病院 助教(専修医)として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ハラスメント防止委員会が設置されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 臨床系女性教員の特別短時間勤務を実施しています。 敷地内に保育所『アイックス』があり、給食対応の実施を行っており、利用が可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 内科指導医が77名在籍しています(下記)。 研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2023年度実績 医療安全2回、感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催(2023年度実績3回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野の全てで定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計12演題の学会発表(2023年度実績49演題:専修医発表のみ)をしています。
指導責任者	<p>氏名:高見昭良</p> <p>【専攻医へのメッセージ】</p> <p>愛知医科大学病院内科は、消化管、肝胆膵、循環器、内分泌・代謝、糖尿病、腎臓・リウマチ膠原病、呼吸器・アレルギー、神経、血液の9診療科とプライマリーケアセンターを担当する総合診療科で構成されています。一般診療から高度な専門医療まで84名の指導医を中心に研修を行なっており、「研修手帳」に定められた70疾患群、200症例は全て網羅することができます。専門医取得や大学院進学もシームレスに行うことができる環境です。学会発表はもちろん、臨床研究および基礎研究の双方を行う環境も整備されています。最新の設備と充実した指導医の下で、内科専門医の第一歩をスタートしましょう。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医77名、日本内科学会総合内科専門医47名 日本消化器病学会消化器専門医25名、 日本循環器学会循環器専門医24名、 日本内分泌学会専門医6名、 日本糖尿病学会専門医16名、 日本腎臓病学会専門医11名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医6名、 日本血液学会血液専門医8名、 日本神経学会神経内科専門医16名、 日本アレルギー学会専門医(内科)6名、 日本リウマチ学会専門医5名、 日本感染症学会専門医3名、 日本肝臓学会専門医6名、 日本臨床腫瘍学会専門医2名、 日本消化器内視鏡学会専門医21名
外来・入院患者数	外来患者3,425名(1ヶ月平均) 入院患者2,150名(1ヶ月平均延数)

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベーション治療学会研修施設 など

藤田医科大学病院

26. 藤田医科大学病院

認定基準 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理部）があります。 ハラスマント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準	指導医が60名在籍しています。（下記）

2)専門研修プログラムの環境	内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策に関する認定共通講習を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (2024年度実績9回) 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 (2024年度実績24演題)
指導責任者	村松 崇 【内科専攻医へのメッセージ】 藤田医科大学病院には12の内科系診療科（救急医学・総合内科、循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化器内科、血液・細胞療法科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、臨床腫瘍科、脳神経内科、認知症・高齢診療科、感染症科）があり、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が構築かれています。また、救急疾患は高度救命救急センター（NUC、CCU、救命ICU、GICU、ER、災害外傷センター）および各診療科のサポートによって管理されており、大学病院、特定機能病院としての専門的高度先進医療から尾張東部医療圏の中核病院として的一般臨床、救急医療まで幅広い症例を経験することができます。院内では各科のカンファレンスも充実しており、またキャンサーボードなど多職種合同検討会やアレルギー研究会など科を越えた勉強会検討会も数多く実施しております。
指導医数 (常勤医) 2022年4月1日現在	日本内科学会指導医 60名 日本内科学会総合内科専門医 69名 日本消化器病学会消化器病専門医 28名 日本循環器学会循環器専門医 17名 日本内分泌学会専門医 9名 日本糖尿病学会専門医 10名 日本腎臓学会専門医 9名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 17名 日本血液学会血液専門医 12名 日本神経学会神経内科専門医 12名 日本アレルギー学会専門医（内科） 5名 日本リウマチ学会専門医 13名 日本感染症学会専門医 5名 日本救急医学会救急科専門医 16名
外来・入院患者数	外来患者 3,711.2名 (2024年度1日平均) 入院患者 1,365.4名 (2024年度1日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会認定制度専門研修プログラム

(内科系) 2024年4月1日現在	日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会専門研修プログラム 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
----------------------	--

2.7. 知多厚生病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医（とともに正職員）として労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務課）があり、2016年度より個々の職員に対しストレスチェックを実施しています。 ・コンプライアンス（法令遵守）に向けて、1年に1度職員自身が自己点検を行う機会を設けています。 ・ハラスマント防止にも力を入れており、万が一に備えて相談窓口を設置するとともに、事案発生時は適宜委員会にて対応しています。 ・女性専攻医でも安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内に院内保育所があります。病児保育・病後児保育はおこなっていません。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が4名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理（コンプライアンス全般に係る講習）・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催します（2024年度実績：医療倫理2回、医療安全2回、感染対策2回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2024年度実績1回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（例として救急症例検討会2024年度実績：2回開催、医師会合同カンファレンス同：3回開催、医師会症例検討会10回）

認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 (2024 年度実績 1 演題)
指導責任者	高橋 佳嗣
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4 名 日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 11,373 名 (1 ヶ月平均実数) , 入院患者 271 名 (1 ヶ月平均実数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本東洋医学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設

3)専門研修特別連携施設

自治医大関連グループ

1. 愛知県厚生農業協同組合連合会 足助厚生病院

1)専攻医の環境	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署 (健康管理室) があります。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
----------	--

2) 専門研修プログラムの環境	指導医が 4 名在籍しています。 C P Cを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (2024 年度実績 0 回) 次年度以降は、基幹施設開催等の機会を利用。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し (2023 年度実績 3 回) 、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、(総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、神経、感染症および救急) の分野の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会や同地方会にシニアレジデント (専攻医) が定常的に発表しています。 (2021 年度実績 1 演題) シニアレジデント (専攻医) が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。
指導責任者	小林真哉
指導責任者からのメッセージ	へき地医療の実際を体験することで医療の形態の多様性を知るとともに、内科診療を中心とした、慢性疾患、高齢者医療に対する理解を深め、地域包括医療の研修を行います。
外来・入院患者数	外来患者 4,672 名 (1 ヶ月平均) 、入院患者 3,933 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、疾患群項目表のうち 7 / 13 領域、70 疾患群の症例を必要程度経験することができます。
経験できる技術・技能	高齢者中心に必要程度経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	地域に根ざした医療や病診・病病連携などを経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器内視鏡学会指導認定施設
研修の魅力	足助病院は、愛知県豊田市の北東部、紅葉で知られる香嵐渓や古い町並みを擁した風情豊かな中山間地域にあり、過疎化が進む少子高齢化の先進地域であります。へき地医療拠点病院として「在宅医療から急性期まで」を合言葉に地域完結型の医療に取り組んでいる病院です。診療圏の高齢化率は 40 % を超えていますが、年をとっても安心・満足して暮らせる地域づくりを目標に地域のセーフティネットとして保健・医療・福祉 (介護) を提供します。へき地医療の実際を体験することで医療の形態の多様性を知るとともに、内科診療を中心とした、慢性疾患、高齢者医療に対する理解を深め、地域包括医療の研修を行います。

2. 東栄診療所

認定基準【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	卒後臨床研修における協力施設診療所です。 インターネット環境があります。 ハラスマント委員会が整備されています。 (必要時に対応)
認定基準【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 研修施設群合同カンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 基幹施設で行う C P C の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

指導責任者	丹羽 美和子
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 1名　　日本老年医学会専門医 1名 日本内科学会指導医 1名　日本内視鏡学会専門医 1名 日本消化器病学会専門医 1名　日本プライマリケア学会認定医、指導医 1名
外来・入院患者数	外来患者 1, 909 (1ヶ月平均) 、入院患者 名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患の症例のうち、一般的な内科診療で遭遇する症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能のうち、一般的な内科診療に必要な技術・技能を経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	地域包括医療・ケア認定施設
異動を伴う研修を行なった場合の研修の魅力	高齢化率 50% 超した地域の中での内科医の役割を肌で感じることができます。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院内科専門研修プログラム管理委員会

(2024年4月現在)

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

東 慶成 (プログラム統括責任者, 委員長)
若山 尚士 (副プログラム統括責任者, 呼吸器・アレルギー分野責任者)
林 克巳 (副プログラム統括責任者, 消化器内科分野責任者)
内田 俊樹 (副プログラム統括責任者, 血液・腫瘍内科分野責任者)
吉見 祐輔 (総合内科分野責任者)
吉田 幸彦 (循環器分野責任者)
安井 敬三 (神経内科分野責任者)
木全 司 (薬剤部長)
中内 真由美 (看護部長)

連携施設・特別連携施設担当委員

赤羽 武弘 石巻赤十字病院 消化器内科部長
藤城 貴教 清水赤十字病院 院長
白子 順子 高山赤十字病院 顧問兼教育研修推進室長
澤部 琢哉 広島赤十字・原爆病院 リウマチ科部長
萩山 裕之 横浜市立みなと赤十字病院 膜原病・リウマチ内科科部長
岩間 信太郎 名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科講師
小島 由美 名古屋掖済会病院 副院長兼血液内科部長
山本 一仁 愛知県がんセンター 院長
堀尾 芳嗣 愛知県がんセンター 外来部長
竹腰 篤 総合犬山中央病院 理事長兼副院長兼呼吸器内科部長
加田 賢治 独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院 副院長
横山 敏之 久美愛厚生病院 副院長
瀬尾 由広 名古屋市立大学病院 循環器内科部長
北田 修一 名古屋市立大学病院 循環器内科 講師
前田 浩義 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 病院長補佐
井澤 晋也 愛知医科大学病院 助教
佐藤 元美 新城市民病院 副院長兼腎臓内科診療部長
小林 真哉 愛知県厚生農業協同組合連合会足助厚生病院 病院長
丹羽 美和子 東栄町国民健康保険東栄診療所 診療所長
野口 晉夫 国立循環器病研究センター
青山 琢磨 副院長・心臓血管内科部長・教育研修部長
竹本 憲二 中部国際医療センター 副院長・循環器病センター長
傍島 裕司 安城更生病院 副院長兼内科代表部長
渡邊 純二 大垣市民病院 副院長 糖尿病・腎臓内科
新美 由紀 市立四日市病院 副院長
津島市民病院 脳神経内科部長

坂 洋祐 春日井市民病院 医務局長兼病院安全推進室長兼腎臓内科主任部長
村松 崇 藤田医科大学病院 循環器内科 准教授
日比野 剛 岐阜県立多治見病院 副院長兼内科統括部長
松浦 喜徳 浦河赤十字病院 副院長
牧野 光恭 公立西知多総合病院 副院長
浅野 彰大 知多厚生病院 教育研修係長